博　多　157

－博多遺跡群第204次調査報告－

福岡市埋蔵文化財調査報告書1315集

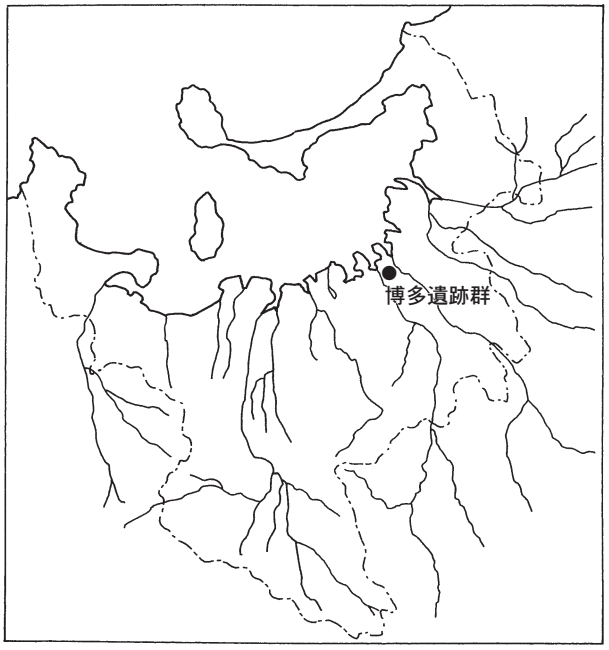
２０１７

福岡市教育委員会

博　多　157

－博多遺跡群第 204 次調査報告－

福岡市埋蔵文化財調査報告書 1315 集



遺跡略号　HKT － 204
調査番号　1449

２０１７

福岡市教育委員会

序

玄界灘に面し古くから大陸との文化交流の玄関口であった福岡市には、豊かな自然と文化が残されています。その中でも博多区は大陸との交流で古くから栄え、遺跡も多く存在しています。これらを保護し、未来へと伝えていくのは本市に課せられた責務であります。しかし、近年の著しい都市化による市街地の拡大により、その一部が急速に失われつつあることもまた事実です。福岡市教育委員会は開発によってやむを得ず失われていく遺跡について、事前の発掘調査を行い、記録の保存に努めています。

今回報告する博多遺跡群の発掘調査報告書は共同住宅建設に伴う調査成果についての記録です。この調査では古代末から近世の集落と道路を確認しました。本書が文化財保護への理解と認識を深める一助となり、また研究資料として御活用頂ければ幸いに存じます。

最後に発掘調査から報告書の刊行に至るまで、多くの方々のご理解とご協力を賜りましたことに対して心から謝意を表する次第であります。

2017 年 3 月 27 日

福岡市教育委員会
教育長　星子明夫

例　言

□本報告書は博多区古門戸町 53 番 1 の共同住宅建設工事に伴って 205 年 3 月 7 日から 2015 年 7 月 17 日にかけて発掘調査を行った博多遺跡群第 204 次調査の報告書である。
□本書に収録した発掘調査は福岡市経済観光文化局の屋山洋が担当した。
□遺構実測・写真撮影は屋山が、製図等を大庭友子・米倉法子・熊野御堂和香子が担当した。
□本書で用いた方位は磁北である。
□本書に関わる図面・写真・遺物など一切の資料は福岡市埋蔵文化財センターに収蔵・保管される予定である。
□貿易陶磁の分類は大宰府条坊跡 XV －陶磁器分類編－ (2000年) 太宰府市教育委員会を参照した 。
□銅銭の分析は福岡市埋蔵文化財センターに依頼した。

遺跡調査番号	1449	遺跡番号	0121	分布地図番号	天神　49
調 査 地 地 番	福岡市博多区古門戸町 53 番 1				
開　発　面　積	306.27 ㎡	調査面積	229 ㎡	調査原因	共同住宅建設
調　査　期　間	20150309 ～ 20150717		担当者		屋山　洋

目次

Ⅰ.はじめに …… 1
Ⅱ.調査の記録 …… 4
1.調査の経過 …… 4
2.調査の概要 …… 4
3.遺構と遺物
1)井戸 …… 4
2)溝 …… 4
3)竪穴土坑 …… 19
4)土坑 …… 23
5)その他の遺構 …… 36
6)道路状遺構 …… 37
7)その他の遺物 …… 37
4 小結 …… 42

挿図

第 1 図 遺跡分布図(1/25,000) …… 2
第 2 図 調査地点位置図(1/4,000) …… 2
第 3 図 調査範囲図(1/200) …… 3
第 4 図 調査区全体図 1(1/120) …… 5
第 5 図 調査区全体図 2(1/120) …… 6
第 6 図 調査区全体図 3(1/120) …… 7
第 7 図 井戸実測図(1/60) …… 8
第 8 図 溝実測図 1(1/60) …… 9
第 9 図 溝実測図 2(1/40・2043 は 1/30)…… 10
第 10 図 溝実測図 3(1/40) …… 11
第 11 図 溝実測図 4(1/40・4225 は 1/20)…… 12
第 12 図 溝実測図 5(1/40) …… 13
第 13 図 竪穴建物実測図(1/30)…… 15
第 14 図 土坑実測図 1(1/40) …… 16
第 15 図 土坑実測図 2(1/30・5022 と 5064 は 1/40)…… 17
第 16 図 土坑実測図 3(1/30・1125 は 1/40)…… 18
第 17 図 土坑実測図 4(1/30) …… 20

第 18 図　土坑実測図 5（1/30）…… 21
第 19 図　土坑実測図 6（1/40・3081 は 1/30）…… 22
第 20 図　土坑実測図 7（1/40）…… 23
第 21 図　土坑実測図 8（1/30）…… 24
第 22 図　土坑実測図 9（1/20）…… 25
第 23 図　その他の遺構実測図 1（1/20）…… 26
第 24 図　遺物写真 …… 27
第 25 図　その他の遺構実測図 2（1/20）…… 28
第 26 図　その他の遺構実測図 3（1/20）…… 29
第 27 図　第 3 面路面遺物出土状況（1/20）…… 31
第 28 図　第 4 面路面遺物出土状況（1/20）…… 32
第 29 図　道路土層図（1/40）…… 33
第 30 図　南東側壁面土層図（1/40）…… 34

表

出土銅銭一覧 1 …… 38
出土銅銭一覧 2 …… 39
出土銅銭一覧 3 …… 40
出土銅銭一覧 4 …… 41

Ⅰ．はじめに

1　調査に至る経緯

平成 26 年（2014 年）10 月 15 日付けで株式会社ネストより博多区古門戸町 53 番 1 の共同住宅建設に伴う埋蔵文化財有無についての照会（26 － 2 － 619）が提出された。照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地である博多遺跡群内に位置し、申請地南東側に隣接する 165 次調査では平安時代末から近世の集落と道路状遺構が良好な状態で出土するなど重要な遺構が検出されている。埋蔵文化財審査課（現埋蔵文化財課事前審査係）は 11 月 10 日の確認調査によって遺構が良好に遺存していることを確認したため、建設に先だって埋蔵文化財の発掘調査を行い、記録保存を図ることが必要であると判断した。それに基づいて原因者と協議を重ね、平成 27 年 3 月 9 日から 7 月 17 日にかけて発掘調査を行った。調査期間中はトイレや水道の設置など原因者及び関係各位の多大なご協力を頂いた。記して感謝したい。

2　調査の組織

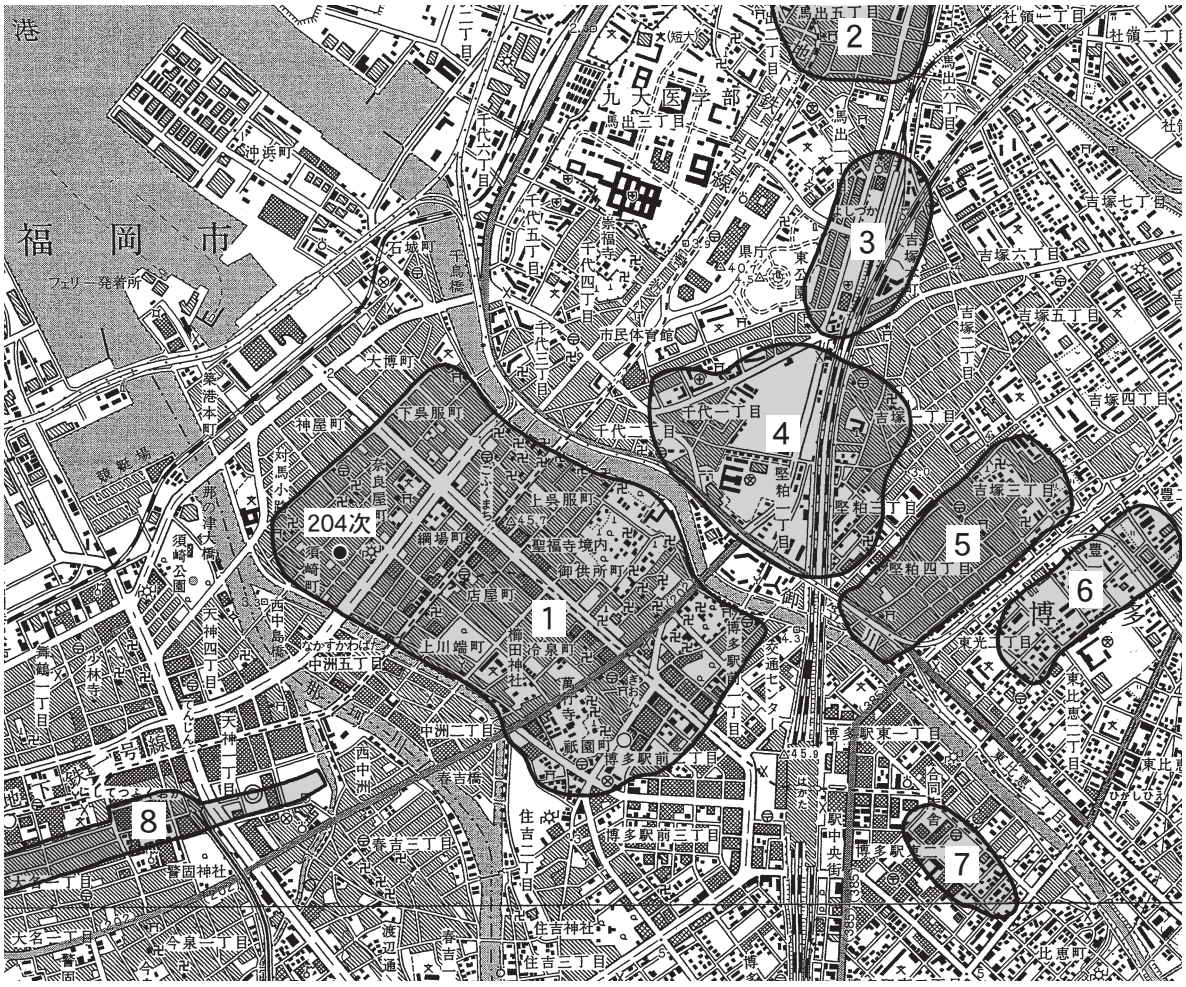
調査委託　株式会社ネスト
調査主体　福岡市教育委員会（発掘調査　平成 26 ～ 27 年度　：整理報告　平成 28 年度）
調査統括　福岡市経済観光文化局文化財部埋蔵文化財調査課（現　埋蔵文化財課）
　　埋蔵文化財調査課長（現　埋蔵文化財課長）　常松幹雄　（平成 26 ～ 28 年度）
　　同課調査第 1 係長（現　埋蔵文化財課第 1 係長）　吉武　学　（平成 26 ～ 28 年度）
　庶務　埋蔵文化財審査課（現　埋蔵文化財課）管理係　川村啓子　（平成 26 ～ 27 年度）
　　埋蔵文化財課管理係　入江よう子（平成 28 年度）
　調査担当　埋蔵文化財調査課（現　埋蔵文化財課）　屋山　洋

作業員　林厚子　田端名穂子　阿部純子　永松弘恵　岡部安正　須佐恵司　中村健三　近藤英彦　富岡洋子　篠原俊夫　安武陽子　鷲津真二郎　江浜明徳　岡村まどか　上野美知子　時吉ひとみ　深溝嘉江　末松克子　田中昭子　森光真理

※埋蔵文化財審査課と埋蔵文化財調査課は平成 28 年 4 月 1 日付けて埋蔵文化財課に統合して
　調査課は第 1 ・2 係、審査課は管理係と事前審査係になった。

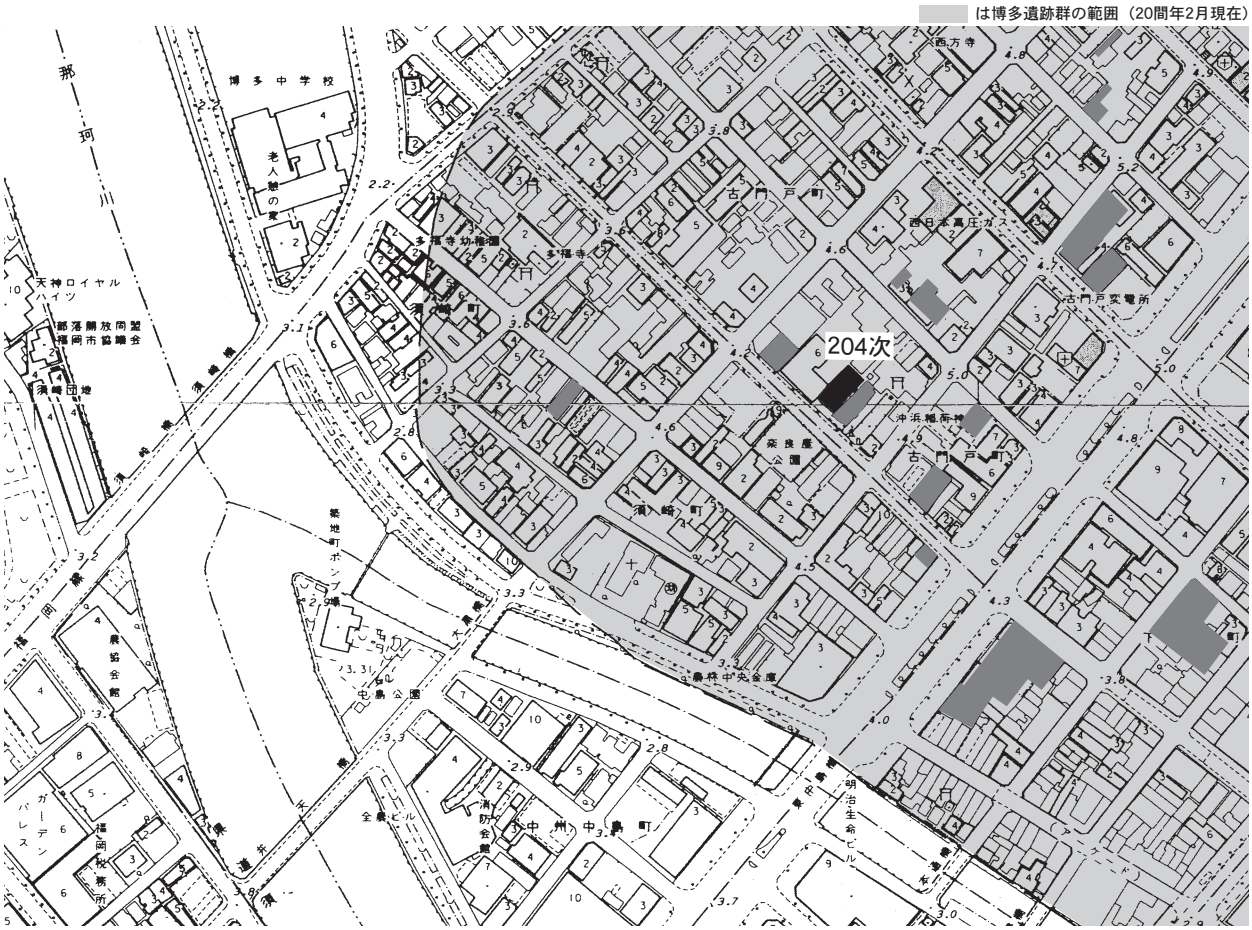
3　調査区の立地と環境

博多遺跡群は博多湾に面した砂丘上に位置する。砂丘は大きく南北 2 つの砂丘に分かれるが、北側を古代の呼び名を元にして沖ノ濱、南側を便宜上博多濱と呼ぶ。博多濱が弥生時代以降の生活痕が見られるのに対し、204 次調査区が位置する沖ノ濱は砂丘の形成が遅れ、12 世紀前半頃に集落が形成されるようになったと考えられる。13 世紀後半に元寇防塁が築かれるとその南側で集落が発達し、15 世紀には博多濱に替わって博多の街の中心となり、大陸との交易で栄えるようになる。今回調査を行った 204 次は沖ノ濱の西端部に位置する。南東側に隣接する 165 次調査では 12 世紀末から 16 世紀後半まで続く道路が出土し、井戸から骨角器の未製品などが出土し工房の存在が予想される。南側に 60m 離れた 78 次調査では 12 世紀代の土壙墓と木棺墓が出土している。78 次のすぐ西側に位置する 123 次調査では井戸や土坑などの遺構が出土しており、集落と墓域が隣接していたことが判る。今回の調査でも集落の中で 12 世紀後半の可能性がある火葬土坑が出土した。

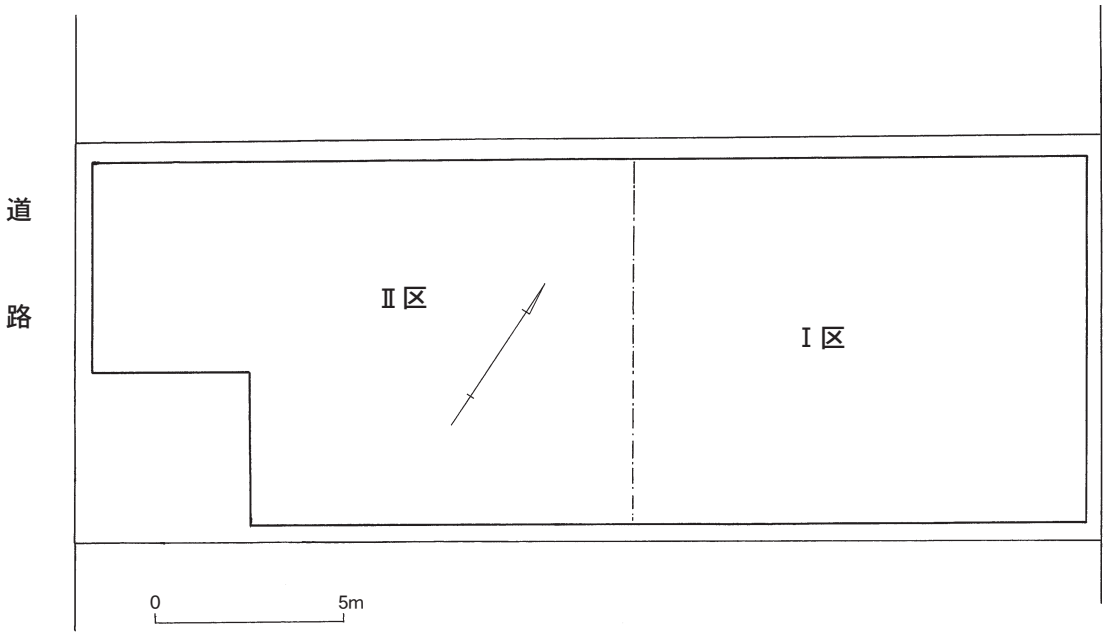


1. 博多遺跡群
2. 箱崎遺跡
3. 吉塚本町遺跡
4. 堅粕遺跡
5. 吉塚遺跡
6. 豊遺跡
7. 駅東生産遺跡
8. 福岡城肥前堀

第 1 図　遺跡分布図 (1/25,000)



第 2 図　調査地点位置図 (1/4,000)



第 3 図　調査範囲図（1/200）

調査前全景（南西から）

Ⅱ．調査の記録

1　調査の経過

申請地である博多区古門戸町 53 番 1 の敷地面積は 306.27 ㎡を測る。西南隅は建物基礎が入らないため調査対象外とし、工事の際に矢板で囲まれる部分を調査対象としたが、面積は 229 ㎡を測る。発掘調査は廃土処理のため、調査区を 2 分割して北東側をⅠ区、南西側をⅡ区としてⅠ区から調査を行った。まず 3 月 5 日から 7 日にかけて原因者側で表土 1.5 ｍを鋤取って場外搬出するとともにユニット等の設置を行い、 3 月 9 日に機材を搬入して調査を開始した。

確認調査により現地表面から 1.5 ｍまでは以前の建物基礎によって破壊されており、それから下は GL から－ 290 ㎝下の砂丘面まで厚さ 140 ㎝の包含層が遺存していることが判明した。調査は 3 面の調査を予定していたが、調査開始後に攪乱を掘り下げたところ、整地層が良好な状態で遺存していることや検出される遺構に大型の土坑や井戸が少なく、小型の柱穴が主であるため、70 ㎝掘り下げてしまうと各調査面間に間が空きすぎるため、調査を行う面の間隔を 35 ㎝ずつとし 5 面（調査区中央部は砂丘面が低くなっており 6 面）の調査を行った。調査はⅠ区の調査を 5 月 14 日に終え、15 日～ 17 日で廃土の搬出を行い 18 日にベルトコンベヤ等の設置を行って 5 月 19 日からⅡ区の調査を開始した。Ⅱ区は 7 月 16 日に調査が終了し、17 日に機材の片付けと搬出を行った。

2　遺構と遺物

1) 井戸　5 基を確認した。標高 0.7 ｍまで下げると水が湧き、壁面が崩壊することからそれ以下は掘り下げていない。

SE1009（図版 15-1）　第 1 面東端に位置し北東側が調査区外に伸びる。井筒径 75㎝を測る。井筒は瓦組みで時代は近世後半から近代である。

SE2084（第 7 図）　第 2 面南縁中央部に位置する。平面は楕円形を呈し長径 2.8 ｍを測る。井筒は径 65㎝の木枠で、痕跡のみの遺存である。湧水のため標高 0.8 ｍで掘り下げを中止した。17 ～ 18 世紀と思われる磁器碗と陶器大甕が出土しており、近世前半と考えられる。

SE5187（第 7 図）　第 5 面北東隅に位置する。北と西側が調査区外に伸び、調査区内での径 4.1 ｍを測る。掘方は逆台形で検出面から 1.6 ｍ下で径 2 ｍ程の平坦面となり、中央に径 68㎝の掘方が見られる。湧水のため掘り下げを中止した。白磁皿Ⅸ類や須恵質捏鉢 (13 世紀) 等が出土しており 13 世紀末後半から 14 世紀前半頃と考えられる。

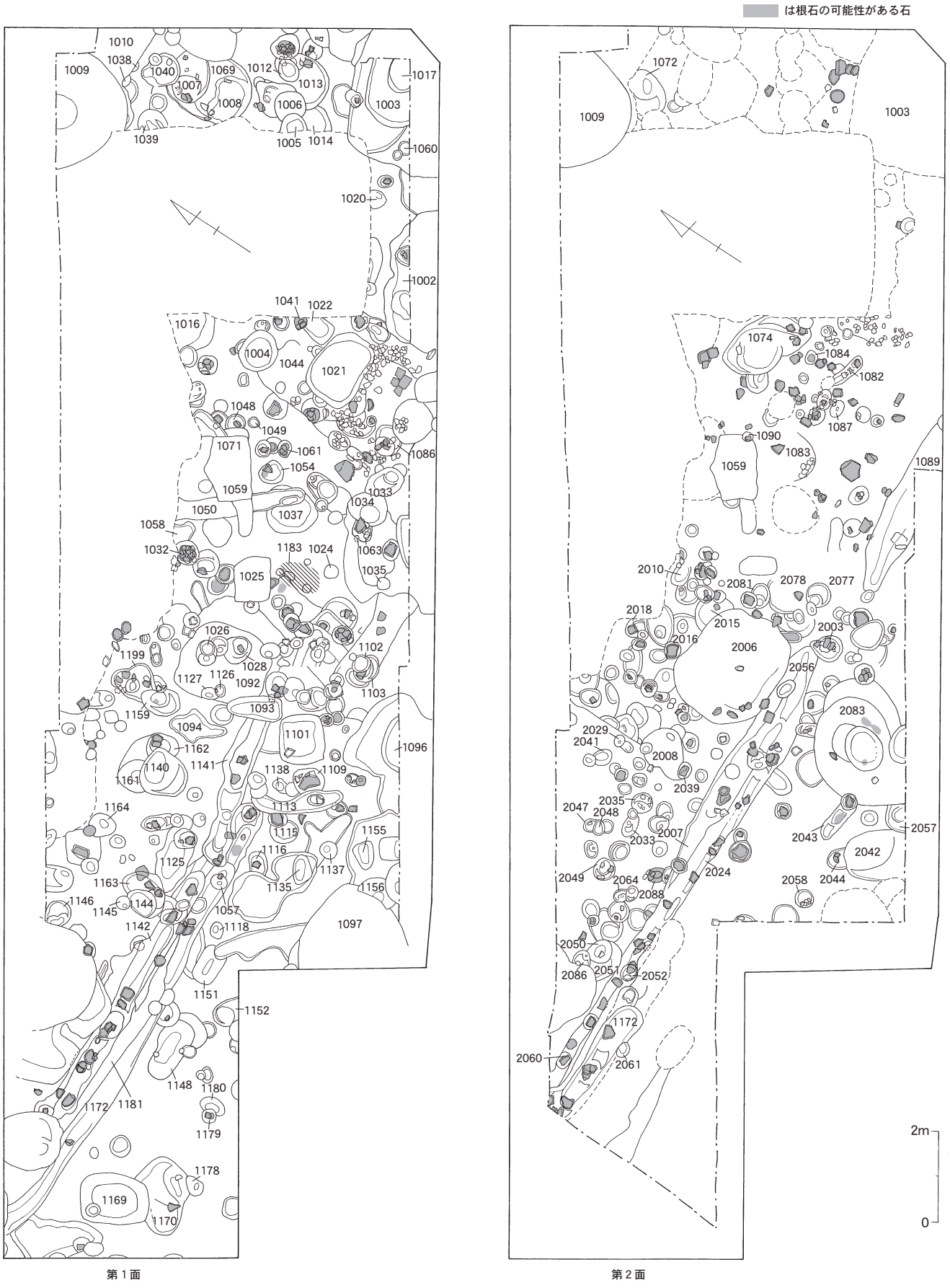
SE5188（第 7 図）　SE5187 に切られる。長径 4m 以上を測る。断面は逆台形を呈し、標高 0.8 ｍで底面に達した。井筒は確認できなかった。遺物は同安窯系青磁等で 12 世紀後半頃と考えられる。

SE6001（第 7 図）　第 6 面調査区中央部西よりに位置し、南西端が調査区外に伸びる。平面は楕円形を呈し、長径 4.5 ｍを測る。検出面から 0.7 ｍと 1.4 ｍに段がつく。同安窯系青磁碗の他に 12 世紀後半と思われる褐釉陶製四耳壺等が出土していることから 12 世紀後半頃と考えられる。

2) 溝

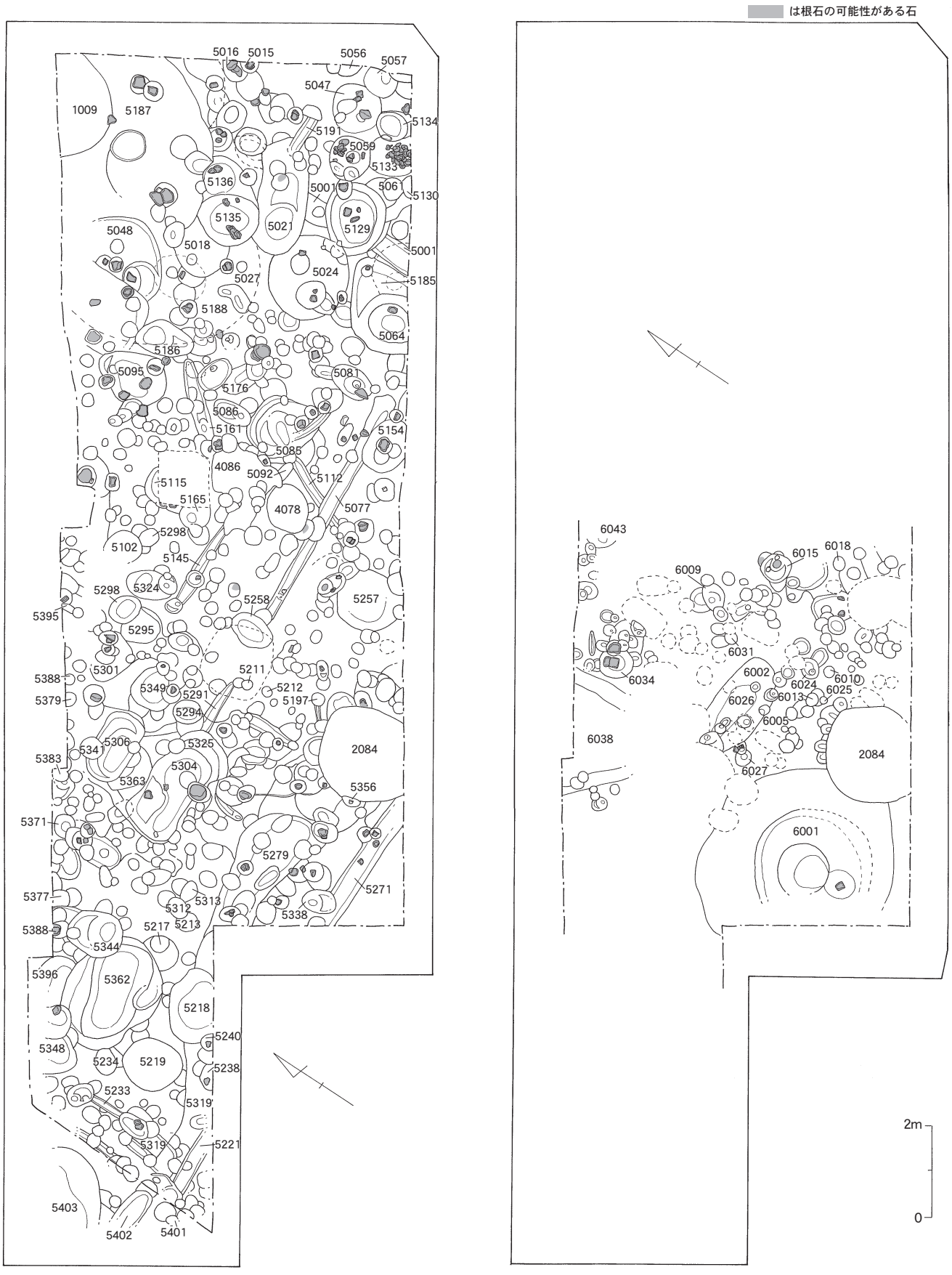
SD1050（第 9 図）　第 1 面の中央東よりに位置し、主軸は現在の地割りに近い N-43-W°にとる。現状で長さ 2.8 ｍ、幅 0.4 ｍ、深さ 12㎝を測る。断面は浅皿状を呈す。出土した遺物は 13 世紀頃を主とするものの 16 世紀の SK1037 を切ることや方位から近世と考えられる。

SD1089（第 9 図）　第 2 面の中央部南端に位置し、東端が調査区外に伸びる。主軸は東西方向を測る。現状で長さ 4.0 ｍ、幅 0.9 ｍ、深さ 27㎝を測る。断面は逆台形を呈す。道路の北側側溝である。15 世紀以降と

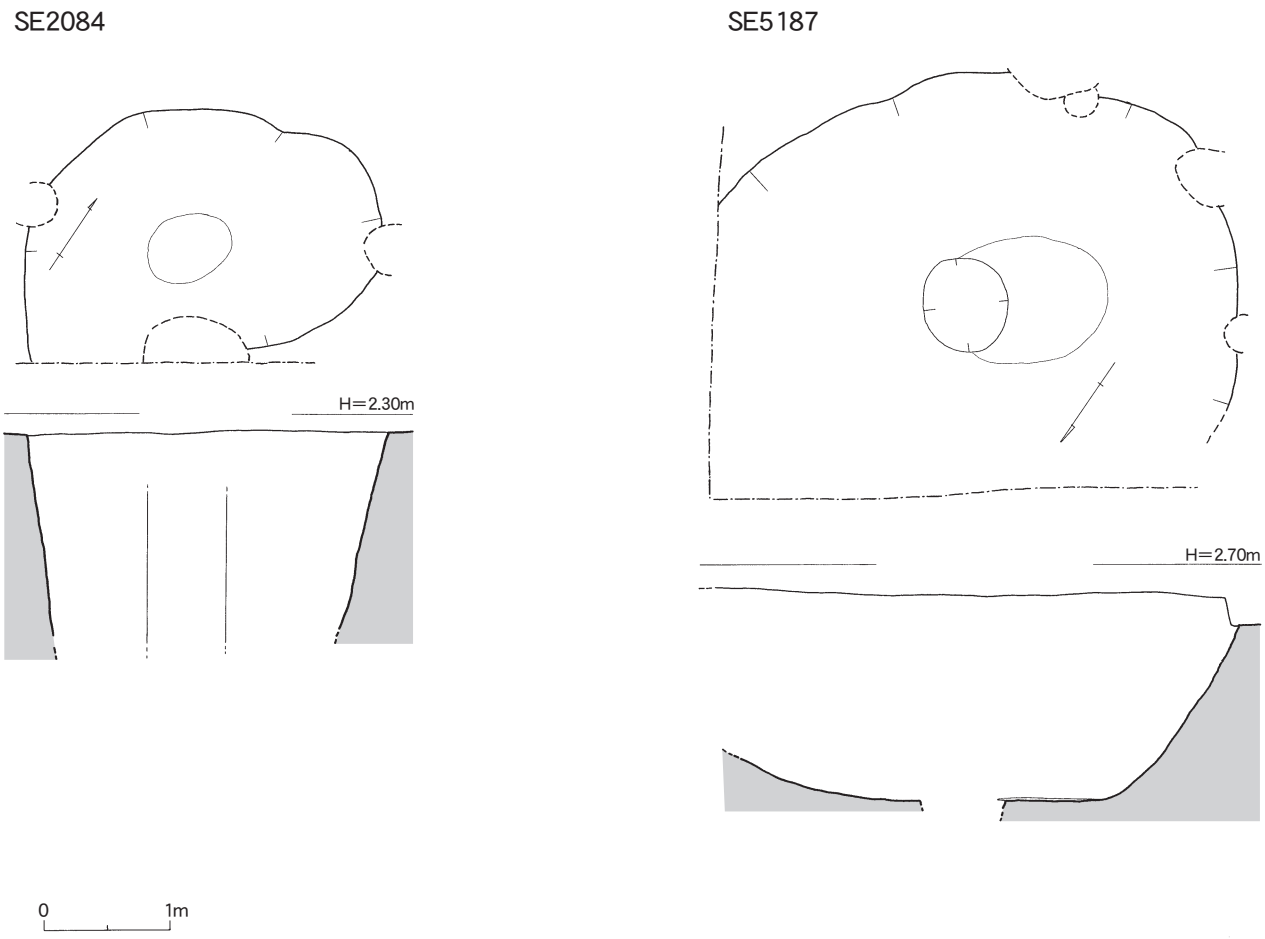


第４図　調査区全体図１(1/120)

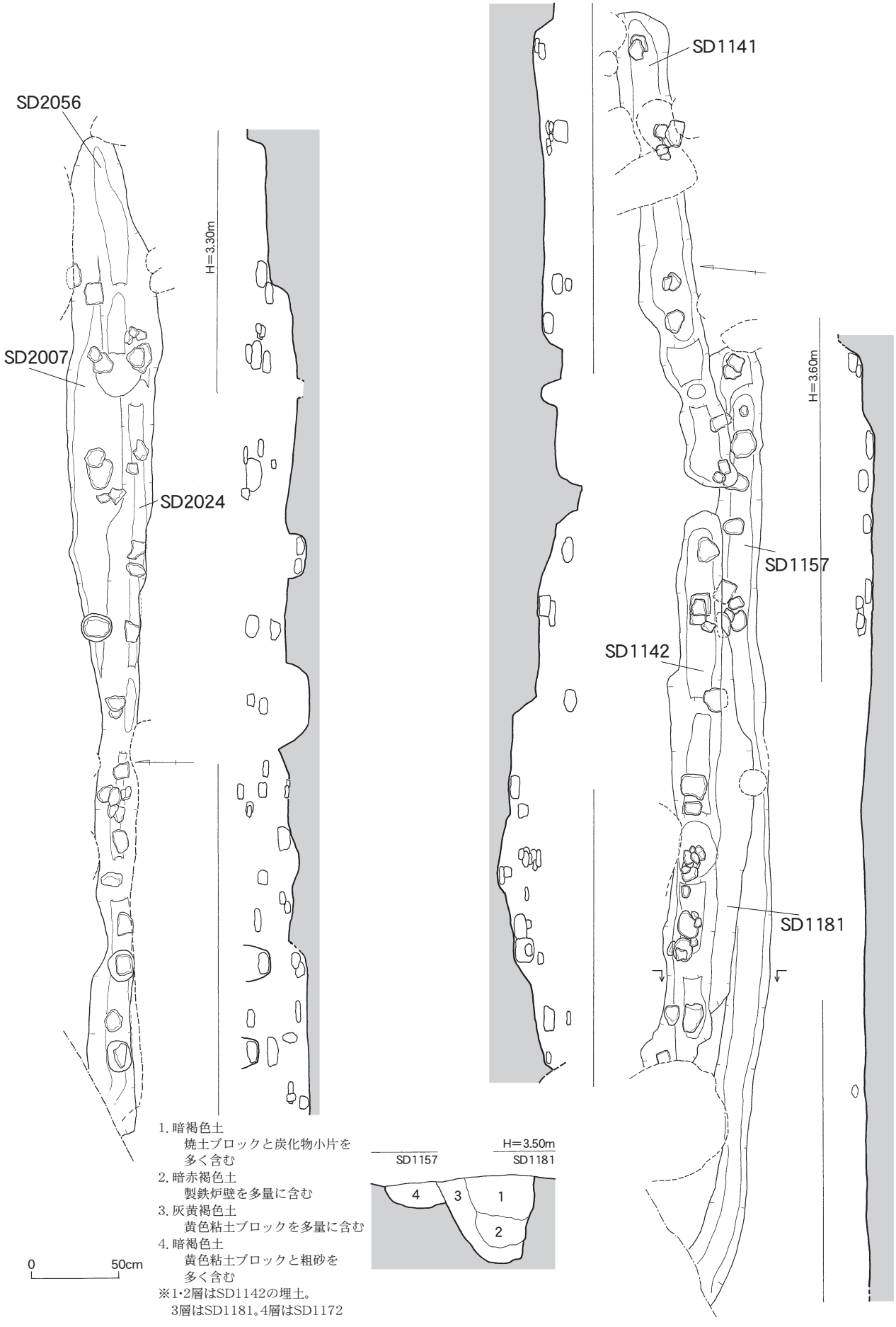
第5図　調査区全体図2(1/120)



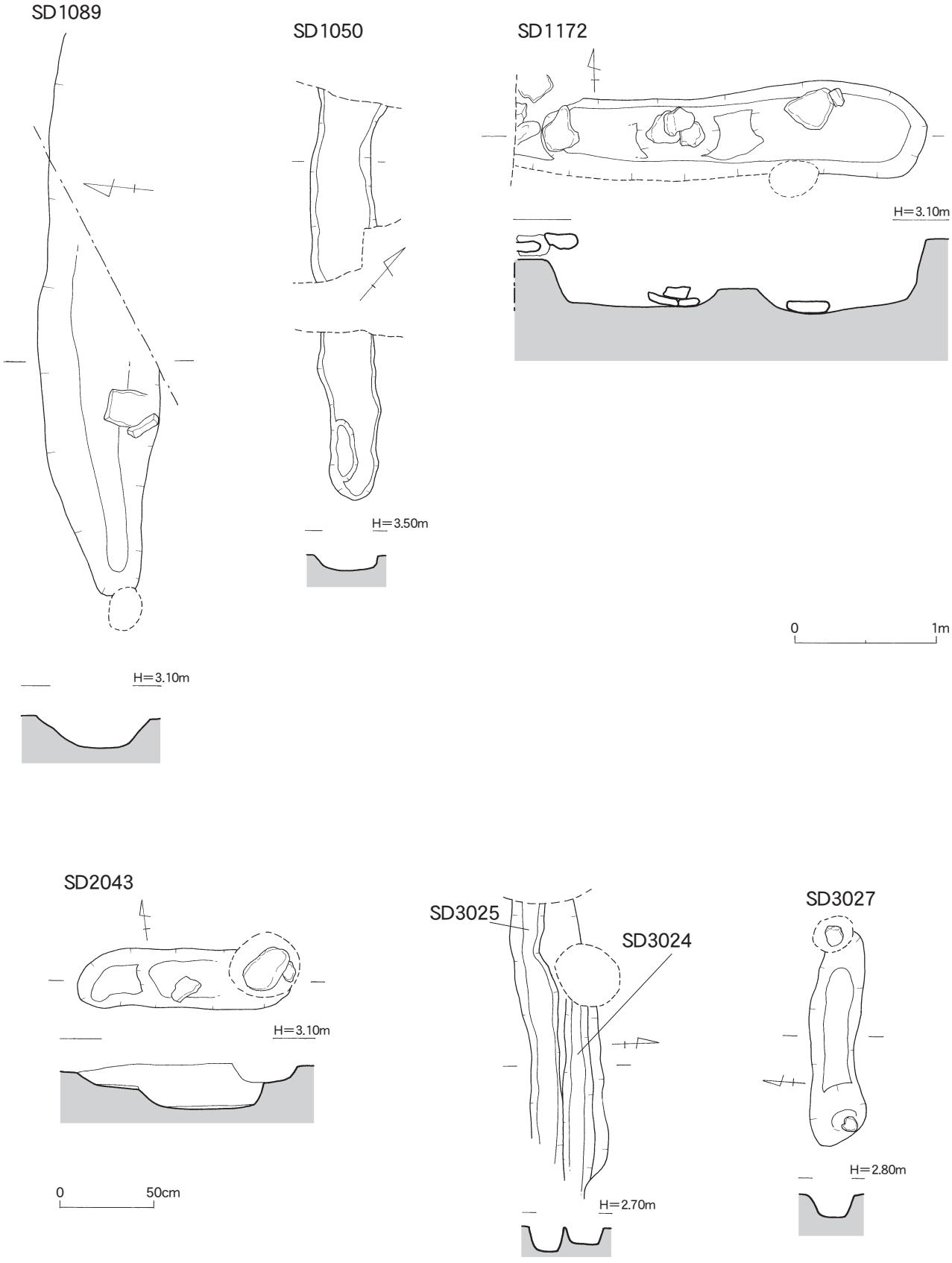
第 6 図　調査区全体図 3(1/120)



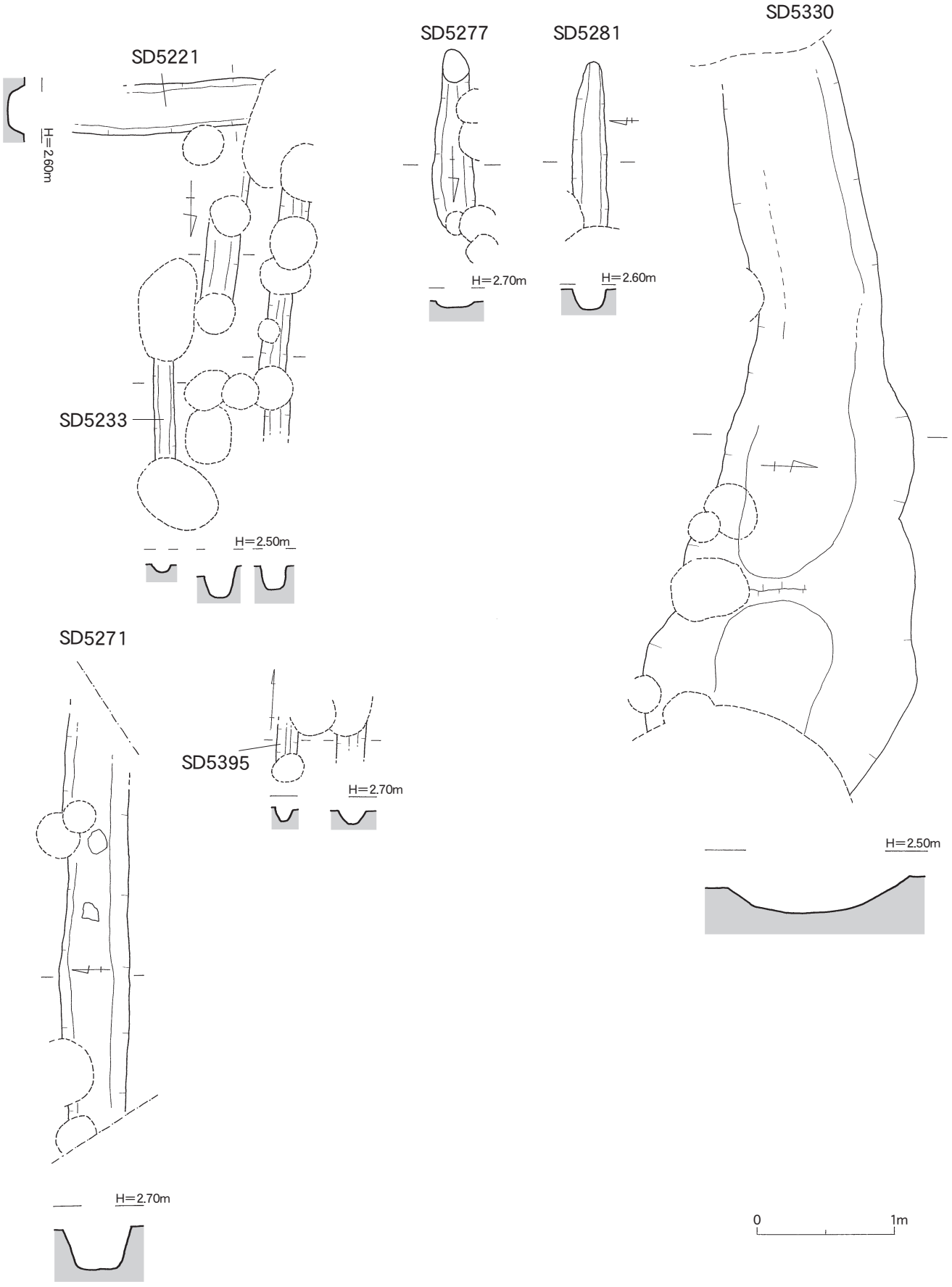
第 7 図　井戸実測図 (1/60)



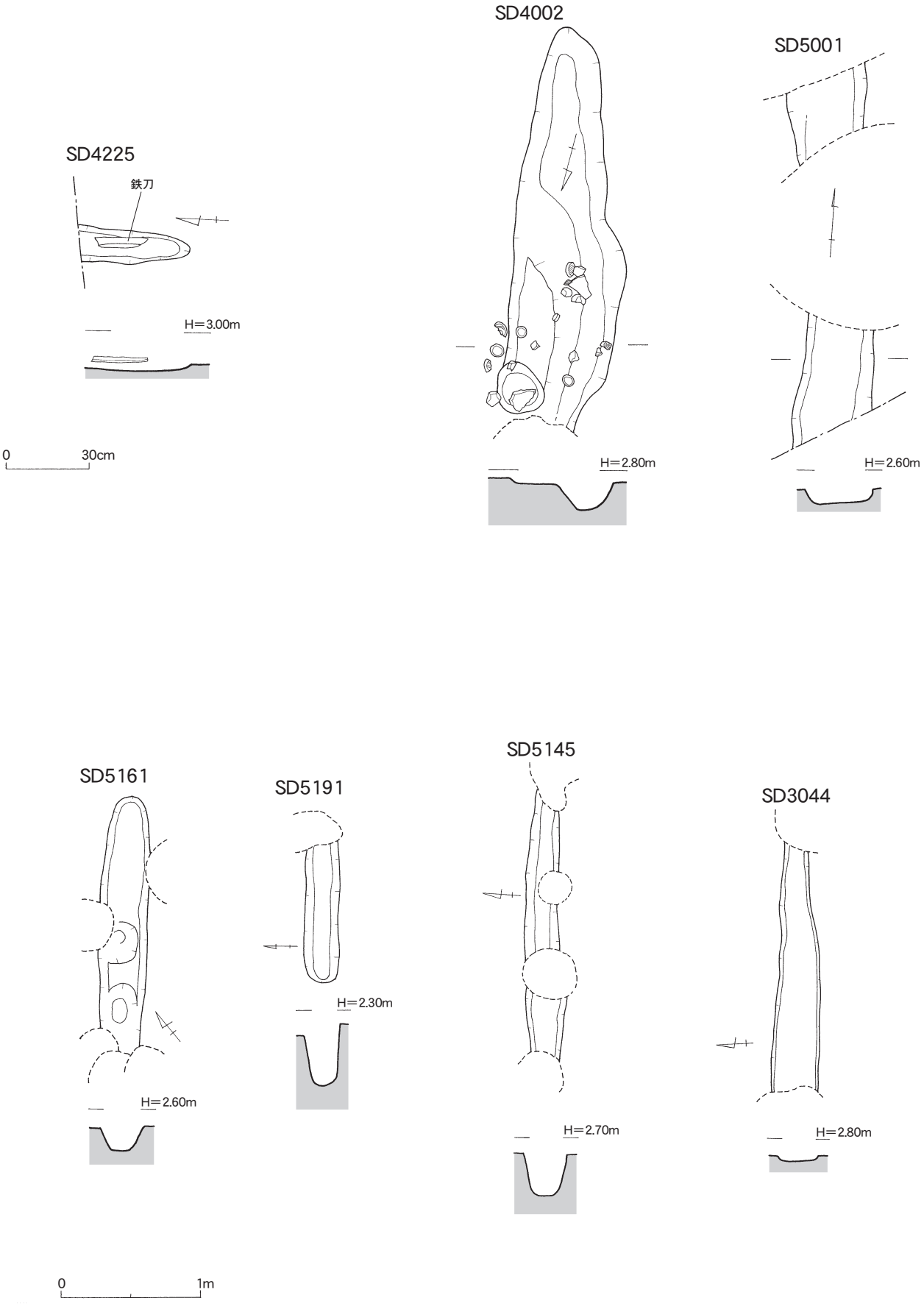
第 8 図　溝実測図 1 (1/60)



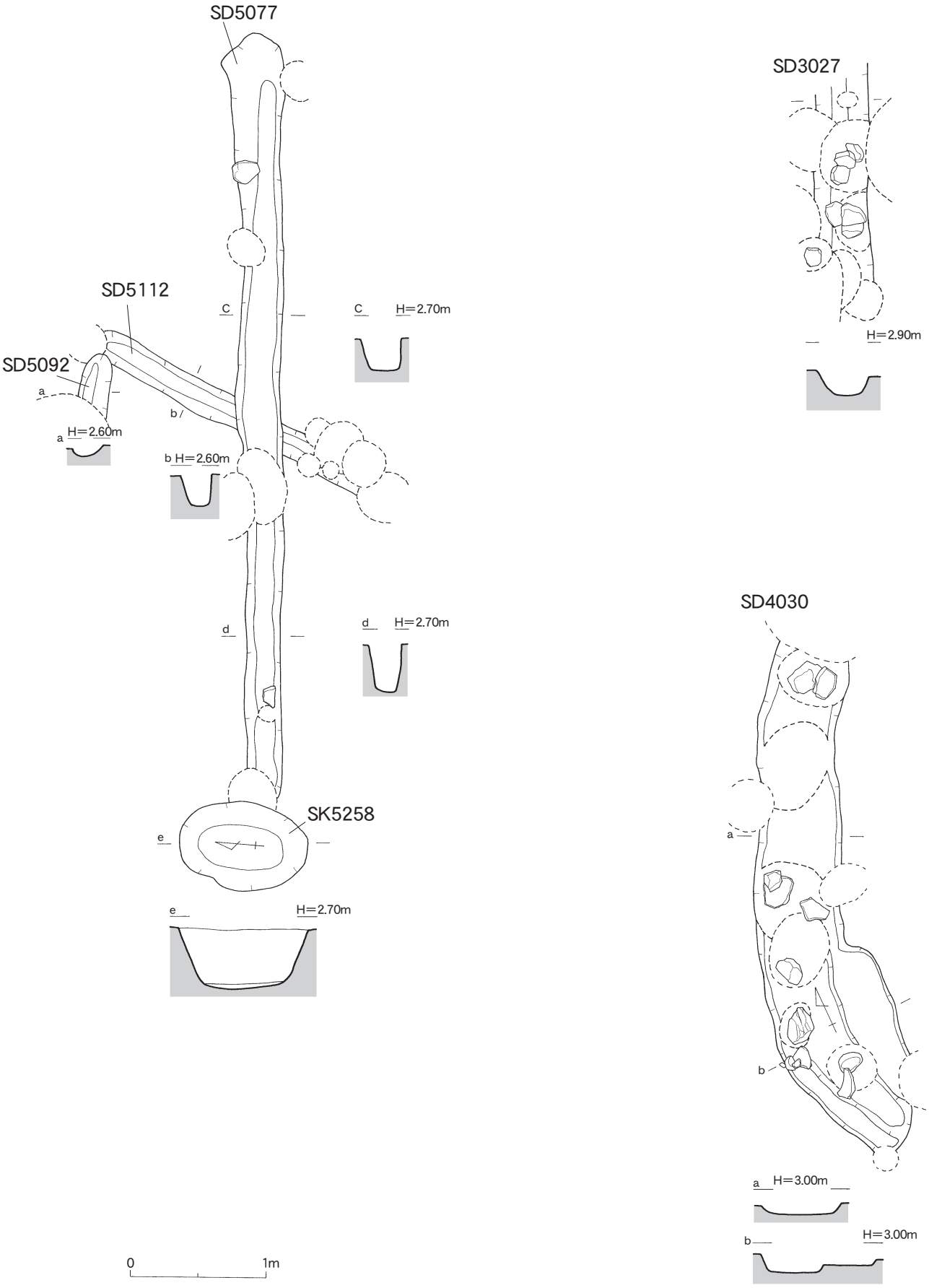
第 9 図　溝実測図 2（1/40・2043 は 1/30）



第 10 図　溝実測図 3（1/40）



第 11 図　溝実測図 4（1/40・4225 は 1/20）



第 12 図　溝実測図 5（1/40）

思われる土師質火鉢等が出土しており中世後半と考えられる。

SD1141(第８図)　1 面西側に位置し、主軸を東西にとる。現状で長さ 4.0 m、幅 40㎝、深 40㎝弱を測る。断面は浅皿状を呈す。底面で根石が出土しており、側溝ではなく、板壁等の柵を支える柱の布掘りである。溝内は多量の鉄滓と炉壁を詰めており、隙間を焼土で埋めていた。焼土層は道路北側に広く分布しており、道路北側の敷地内で製鉄を行っていたものと思われる。鉄滓と炉壁は柱を固定するために使用したものである。灯明皿として使用した土師皿が出土した。16 世紀後半と考えられる。SD1142 と対になるが、途切れた部分に入口等なんらかの構造物があった可能性がある。

SD1142(第８図)　SD1141 の西側に位置する。現状で長さ 4.3 m、幅 40㎝、深さは最大で 60㎝を測る。SD1141 同様に根石が出土し、埋土は焼土、炉壁、鉄滓である。16 世紀後半頃と考えられる。

SD1157(第８図)　SD1141・1142 の南側に位置し、SD1141・1181 に切られる。現状で長さ 7.5 m、幅 30㎝、深さ 25㎝を測る。東側底面上に根石が並ぶ。第 1 面では溝の西側で根石が出土しなかったが、第 2 面調査時に掘り残しと思われる部分 (SD1172　第 9 図) から根石が出土した。西端が北側に弧を描くのは砂丘の西端部に近く、等高線に沿ったためと思われる。14 世紀後半から 15 世紀と考えられる。

SD1172(第９図)　第 2 面西端に位置し主軸を東西にとる。現状で長さ 2.9 m、幅 60㎝、深さ 55㎝を測る。SD1157 と同一遺構の可能性がある。遺物は小片の青磁盤等で中世と思われる。

SD1181(第８図)　第 1 面西側に位置し主軸を東西にとる。SD1142 に切られ、SD1157 を切る。現状で長さ 3.0 m、深さ 70㎝を測る。断面は逆台形を呈す。根石は出土せず SD1142 により壊された可能性がある。青花碗や龍泉窯系青磁碗細型連弁文等が出土しており 16 世紀前半頃と考えられる。

SD2007(第８図)　第 2 面西側に位置する東西方向の溝で SD2024 に切られる。主軸は東西方向で道路の北側に接する。現状で長さ 4.0 m、幅 40㎝、深さ 20㎝を測る。底面直上で根石が出土したため側溝ではなく塀の下部構造である。13 ～ 14 世紀頃と考えられる。

SD2024(第８図)　第 2 面西側に位置する東西方向の溝である。 現状で長さ 6.5 m、幅 35㎝、深さ最大 55㎝を測る。底面には凹凸が見られ 50㎝前後の間隔で根石が並ぶ。遺物は陶器片など小片 3 点のみで、切り合いから 14 世紀前後と考えられる。

SD2043(第９図)　第 2 面中央南側に位置し、主軸を東西にとる。東側を SE2084 に切られており、現状で長さ 1.6 m、幅 30㎝、深さ 25㎝を測る。底面には凹凸がみられる。14 世紀頃と考えられる。

SD3024・3025(第９図)　第３面中央南側に位置し、主軸を東西にとる。道路北側側溝で 3024 が 3025 を切る。現状で長さ 2.1 m、幅 50㎝、深さ 17㎝を測る。断面は箱形を呈す。中世前半と考えられる。

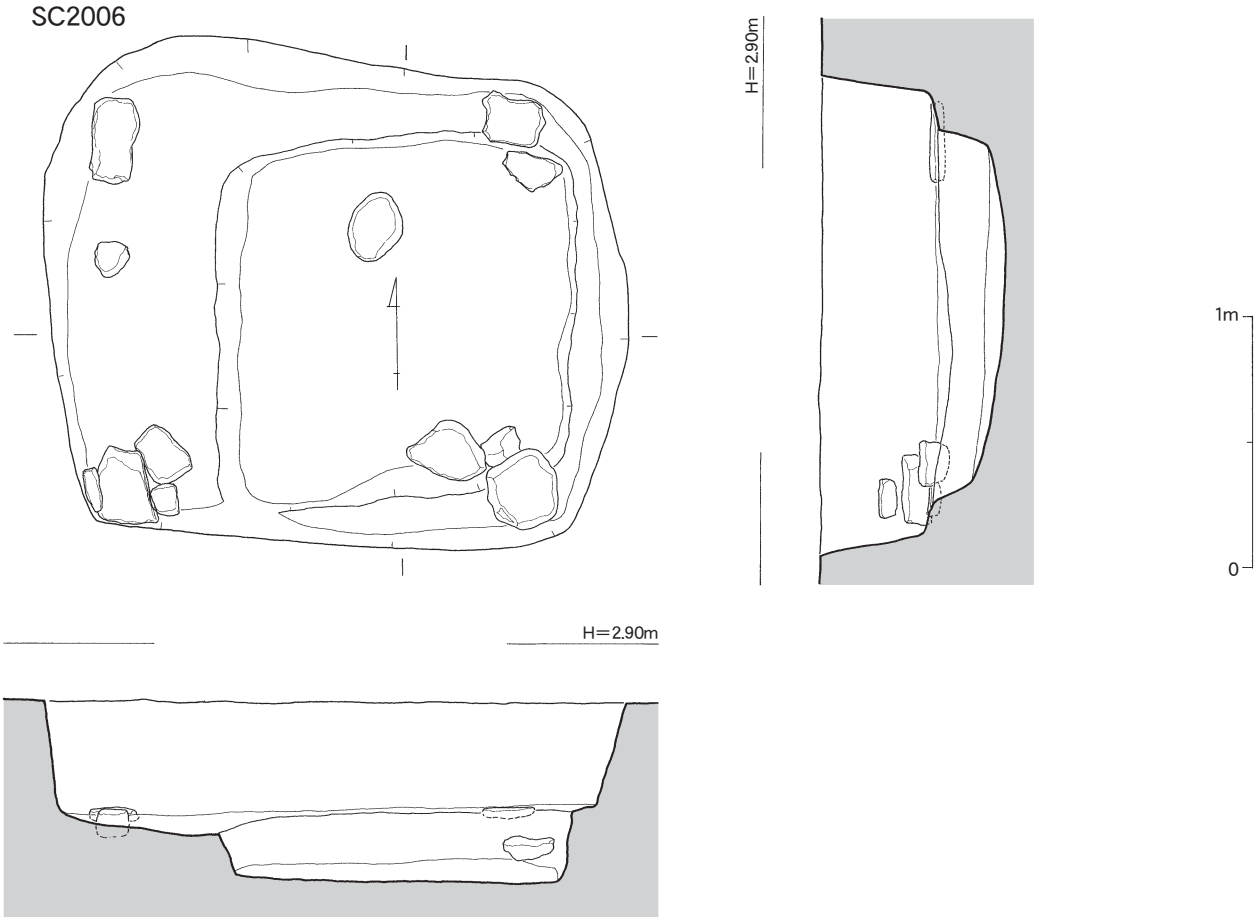
SD3027(第９図)　第 3 面中央に位置し、主軸を東西にとる。北側側溝の一部である。現状で長さ 1.5 m、幅 40㎝、深さ 15㎝を測る。断面は逆台形を呈す。13 世紀から 14 世紀頃と考えられる。

SD3044(第 11 図)　第３面南西側に位置し、主軸を東西にとる。現状で長さ 1.8 m、幅 35㎝、深さ 2㎝を測る。断面は浅皿状を呈す。道路内に位置しており、側溝もしくは轍などであろうか。13 世紀後半以降と考えられる。

SD4002(第 11 図)　第 4 面東端に位置し、主軸を南北にとる。現状で長さ 3.0 m、幅 75㎝、深さ 23㎝を測る。遺物は龍泉窯系青磁盤、白磁碗、陶器 (小甕？、大甕、擂り鉢 -14C ？)、土師坏・皿が出土した。土師坏と皿は小片であるが破片は多く、坏皿とも数点ずつ灯明皿として使用している。14 世紀頃と考えられる。

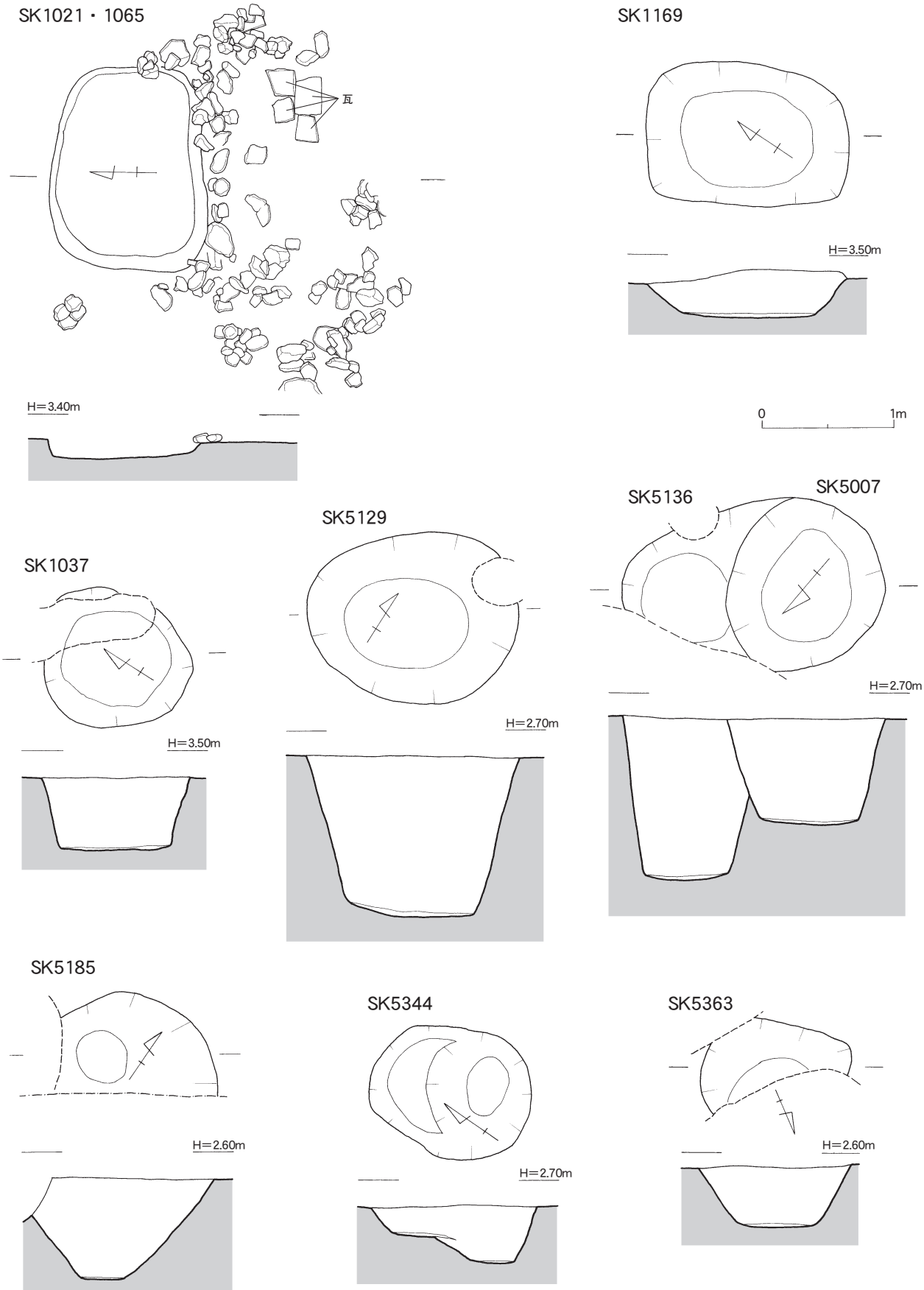
SD4030(第 12 図)　SD4002 の東側に位置し、緩やかに弧を描く。主軸は南北に近い。現状で長さ 3.6 m、幅 60㎝、深さ 13㎝を測る。断面は浅皿状を呈す。12 世紀後半以降と考えられる。

SD4225(第 11 図)　第 4 面北縁に位置し、主軸を南北にとる。現状で長さ 40㎝、幅 13㎝、深さ 4㎝を測る。

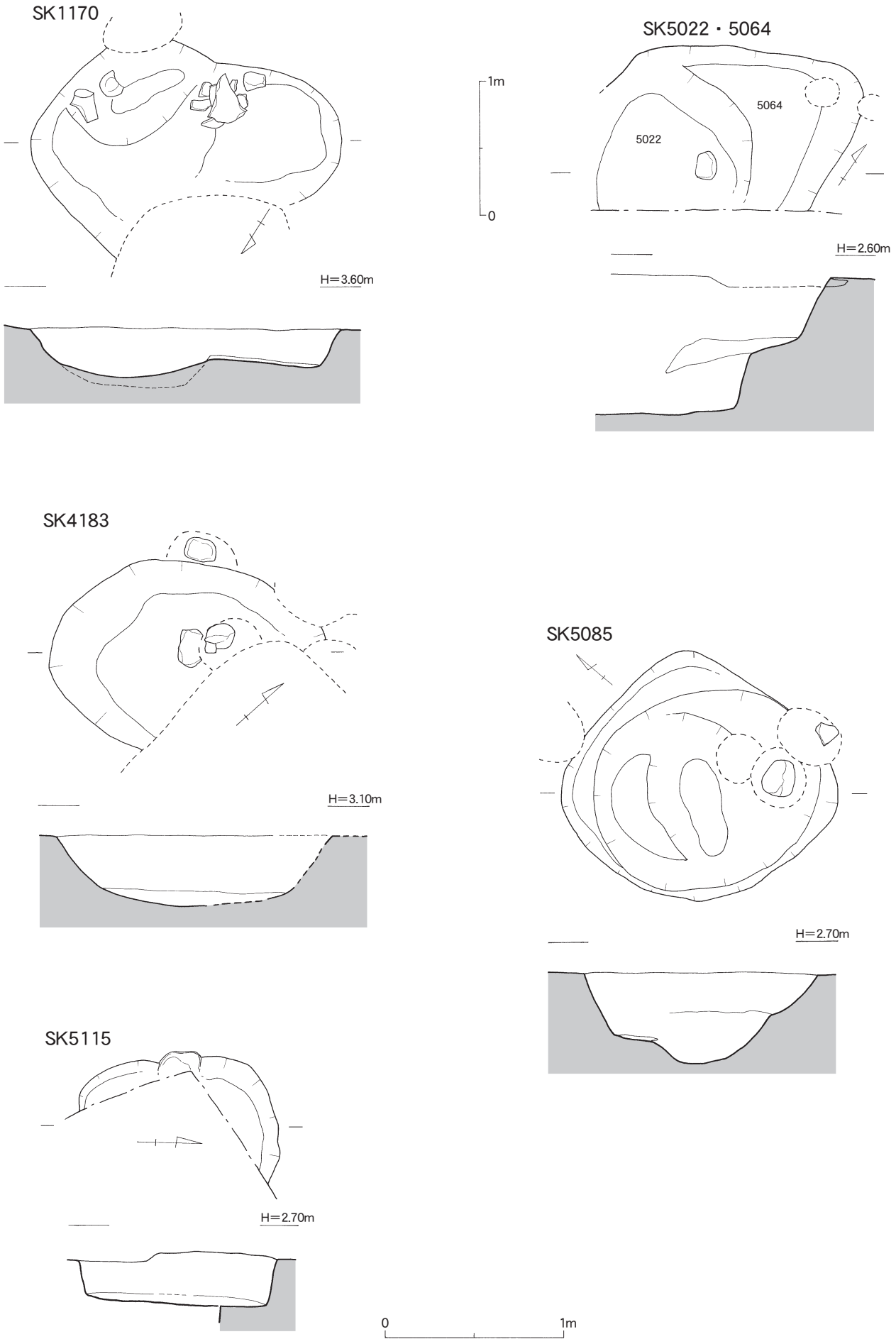


1．灰黄褐色土
2．灰褐色土　黄褐色土ブロックと
　炭化物を多量に含む
3．灰黄褐色土
4．暗灰褐色土
5．黄褐色土
6．暗灰褐色土
7．茶褐色砂
8．茶褐色砂
9．暗灰褐色土
10. 黄褐色土
11. 暗黄褐色粘質土
12. 暗褐色土
13. 暗灰褐色土　焼土ブロック含む
14. 暗灰褐色土
15. 暗灰褐色土

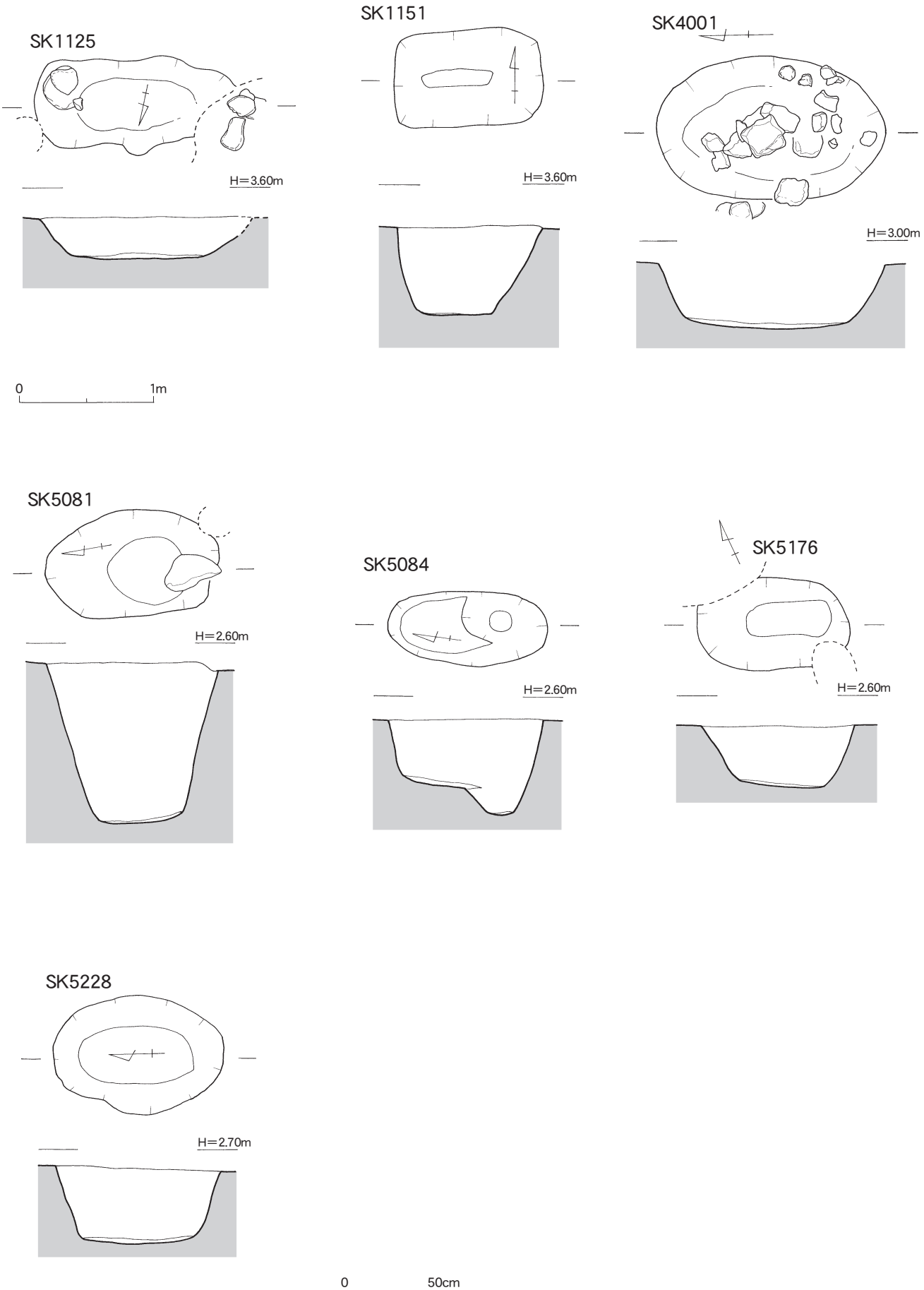
第 13 図　竪穴建物実測図（1/30）



第 14 図　土坑実測図 1(1/40)



第 15 図　土坑実測図 2（1/30・5022・5064 は 1/40）



第 16 図　土坑実測図 3（1/30・1125 は 1/40）

掘り下げ中に小刀が出土し、周囲を掘り下げところ、小刀に沿った溝を検出した。同安窯系青磁碗の小片が出土しており 12 世紀後半～ 13 世紀頃と考えられる。

SD5001(第 11 図) 第 5 面東端に位置し、主軸を南北にとる。現状で長さ 2.6 m、幅 50㎝、深さ 10㎝を測る。断面は浅皿状を呈す。南北方向の道路の西側側溝か。12 世紀後半頃と考えられる。

SD5092(第 12 図) 第 5 面東側に位置し、主軸を東西にとる。SD5145 に続くものと思われ、4.1 m、幅 22㎝、深さ 10㎝を測る。断面は半円を呈す。建物等の基礎か。遺物は土師坏小片 2 点のみである。SD5112(第 12 図) 第 5 面東側に位置し、主軸を N-25° -E にとる。現状で長さ 1.8 m、幅 22㎝、深さ 23㎝を測る。龍泉窯系青磁の碗と皿が出土したがいずれも小片である。12 世紀後半と考えられる。

SD5145(第 11 図) 第 5 面中央に位置し、主軸を東西にとる。現状で長さ 1.9 m、幅 30㎝、深さ 36㎝を測る。断面は箱形を呈す。12 世紀頃と考えられる。

SD5161(第 11 図) 第 5 面東側に位置し、主軸を N-39° -E にとる。現状で長さ 1.9 m、幅 32㎝、深さ 16㎝を測る。断面は逆台形を呈す。12 ～ 13 世紀頃と考えられる。

SD5191(第 11 図) 第 5 面東端に位置し、主軸を東西にとる。現状で長さ 1 m、幅 24㎝、深さ 42㎝を測る。龍泉窯系青磁碗と同安窯系青磁碗の小片が出土した。12 世紀後半頃と考えられる。

SD5221(第 10 図) 第 5 面西端に位置し主軸を東西にとる。道路北側の側溝である。現状で長さ 1.7 m、幅 34㎝、深 12㎝を測る。断面は浅皿状を呈す。白磁皿Ⅸ類が出土しており 14 世紀頃と考えられる。SD5271 と同一遺構の可能性がある。

SD5233(第 10 図) 第 5 面西端に位置し、主軸を南北にとる。現状で長さ 0.7 m、幅 13㎝、深さ 5㎝を測る。断面は逆台形を呈す。12 世紀後半から 13 世紀頃と考えられる。

SD5271(第 10 図) 第 5 面南西端に位置し、主軸を東西にとる。道路北側の側溝である。現状で長さ 3.2 m、幅 51㎝、深さ 29㎝を測る。断面は逆台形を呈す。13 世紀後半頃と考えられる。

SD5277(第 10 図) 第 5 面中央部に位置し、主軸を南北にとる。現状で長さ 1.3 m、幅 29㎝、深さ 4㎝を測る。断面は浅皿状を呈す。遺物は土師皿小片のみで詳細は不明である。

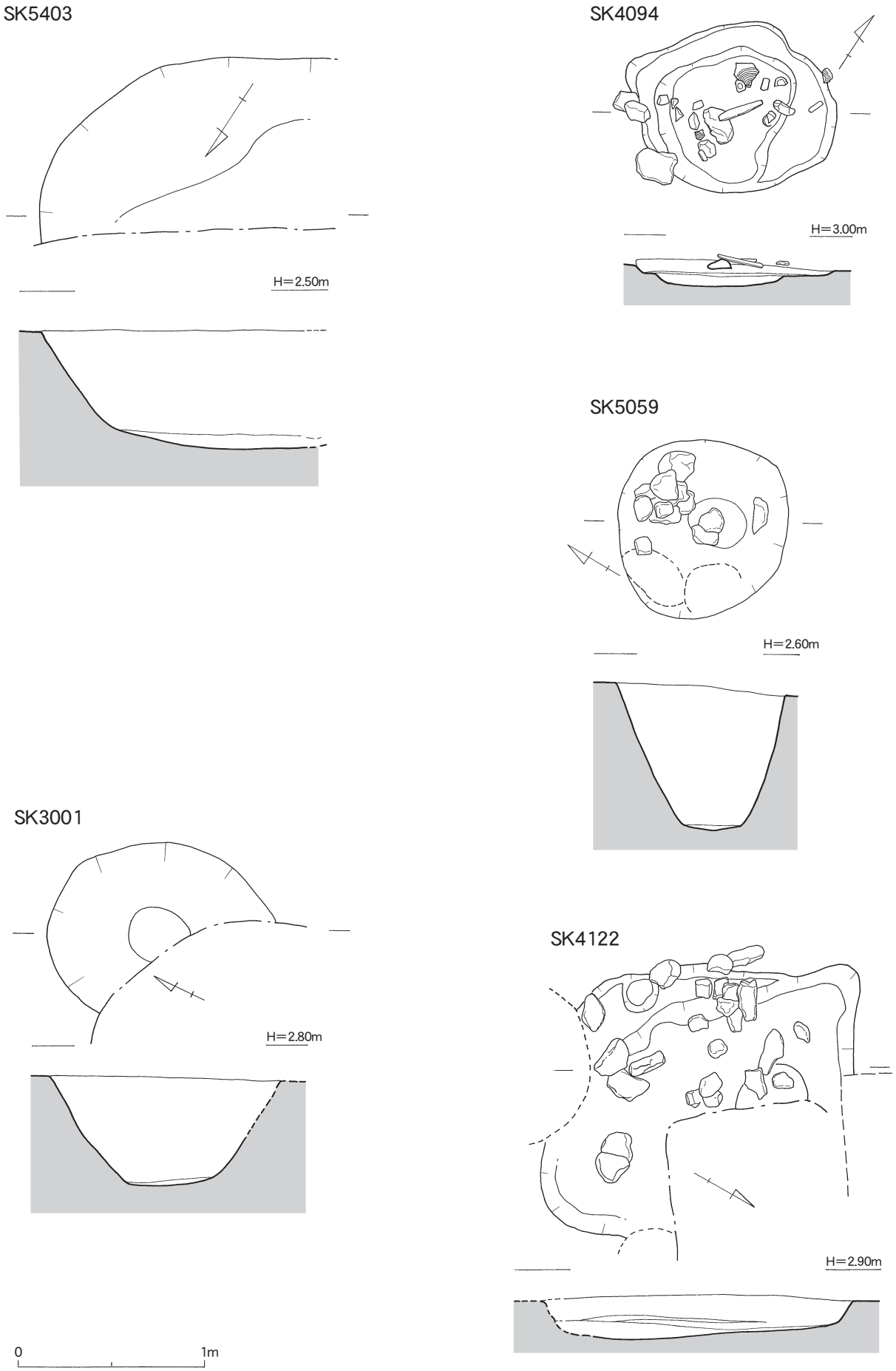
SD5281(第 10 図) 第 5 面中央部西よりに位置し、主軸を東西にとる。現状で長さ 1.2 m、幅 26㎝、深さ 14㎝を測る。断面は逆台形を呈す。白磁碗Ⅳ・Ⅴ類が出土しており 12 世紀頃と考えられる。

SD5330(第 10 図) 第 5 面西側に位置し、主軸を東西にとる。他の溝に比べ直線的ではなく幅も一定ではない。道路北側の敷地内に位置する。塀に沿った塵穴等であろうか。13 世紀前～中頃か。

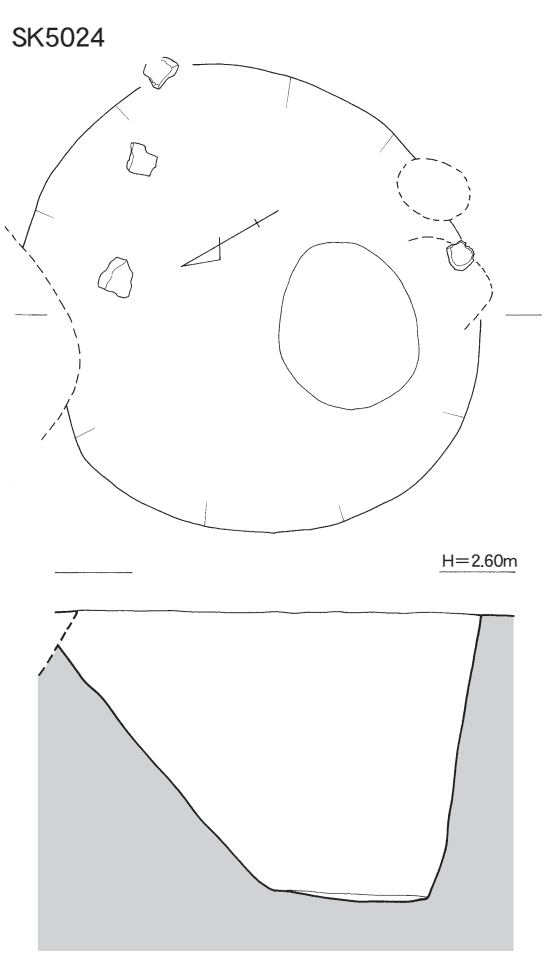
SD5395(第 10 図) 第 5 面中央部北縁に位置する。2 本の溝が並列する。現状で長さ 30㎝、幅 19㎝、深さ 9㎝を測る。断面逆台形である。遺物は小片のみで詳細は不明である。中世前半と思われる。

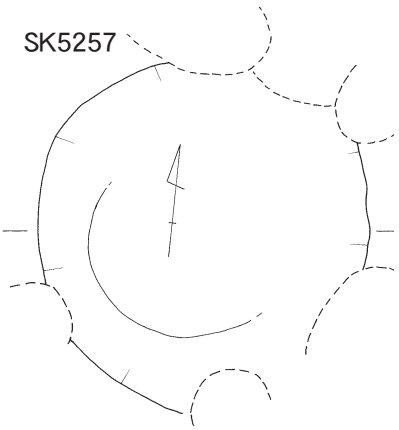
3) 竪穴土坑

SK2006(第 13 図) 調査区中央部に位置する。南側を通る道路北側側溝と柱列に沿う。平面は隅丸長方形で長径 228㎝、短径 195㎝、検出面からの深さ 73㎝を測る。掘方断面は階段状を呈し、検出面から 45㎝下に平坦面を設け、その後平坦面の東側に偏って径 140㎝、深さ 27㎝ほどの正方形に掘り下げている。高床部の四隅に礎石があるほか低床部の床面にも礎石らしき石がある。埋土は暗灰褐色を主としてレンズ状を呈し、低床部直上に径 30㎝前後の礫がぎっしりと詰まっていた。遺物は青花碗、龍泉窯系青磁連弁文碗、青磁壺 (被熱して発泡)、白磁水注、陶器 (大甕、浅鉢)、高麗陶磁碗、瓦質土器 (鉢、擂り鉢)、土鍋、土師坏 (灯明皿あり)、土師皿、瓦 (瓦質で平・丸　多量)、炉壁、瓦玉、滑石製石鍋、石製硯 (赤間石)、獣骨等が出土した。15 世紀後半から 16 世紀前半頃と考えられる。

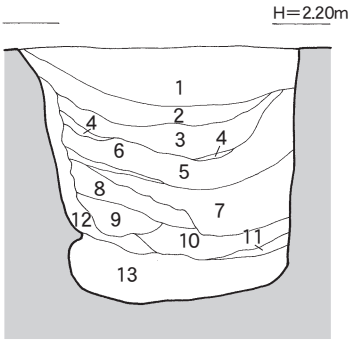


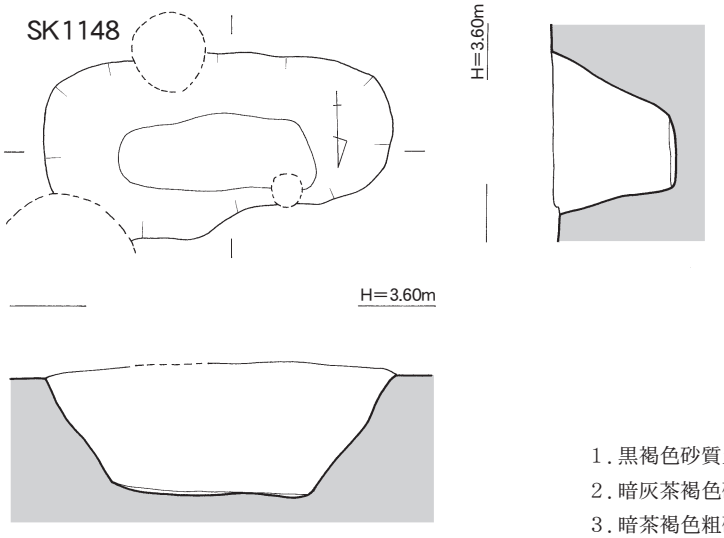
第 17 図　土坑実測図 4（1/30）

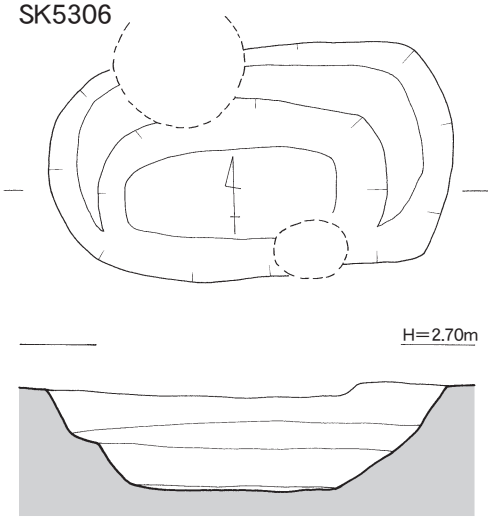




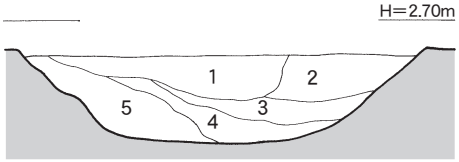
1．暗褐色土
2．茶褐色砂
3．暗灰褐色土
4．茶褐色砂
5．暗灰褐色土
6．茶褐色砂
7．暗灰褐色土
8．茶褐色砂
9．暗灰褐色土
10．暗灰褐色土
　茶褐色砂を多く含む
11．黄色砂
12．茶褐色砂
13．暗灰褐色砂質土



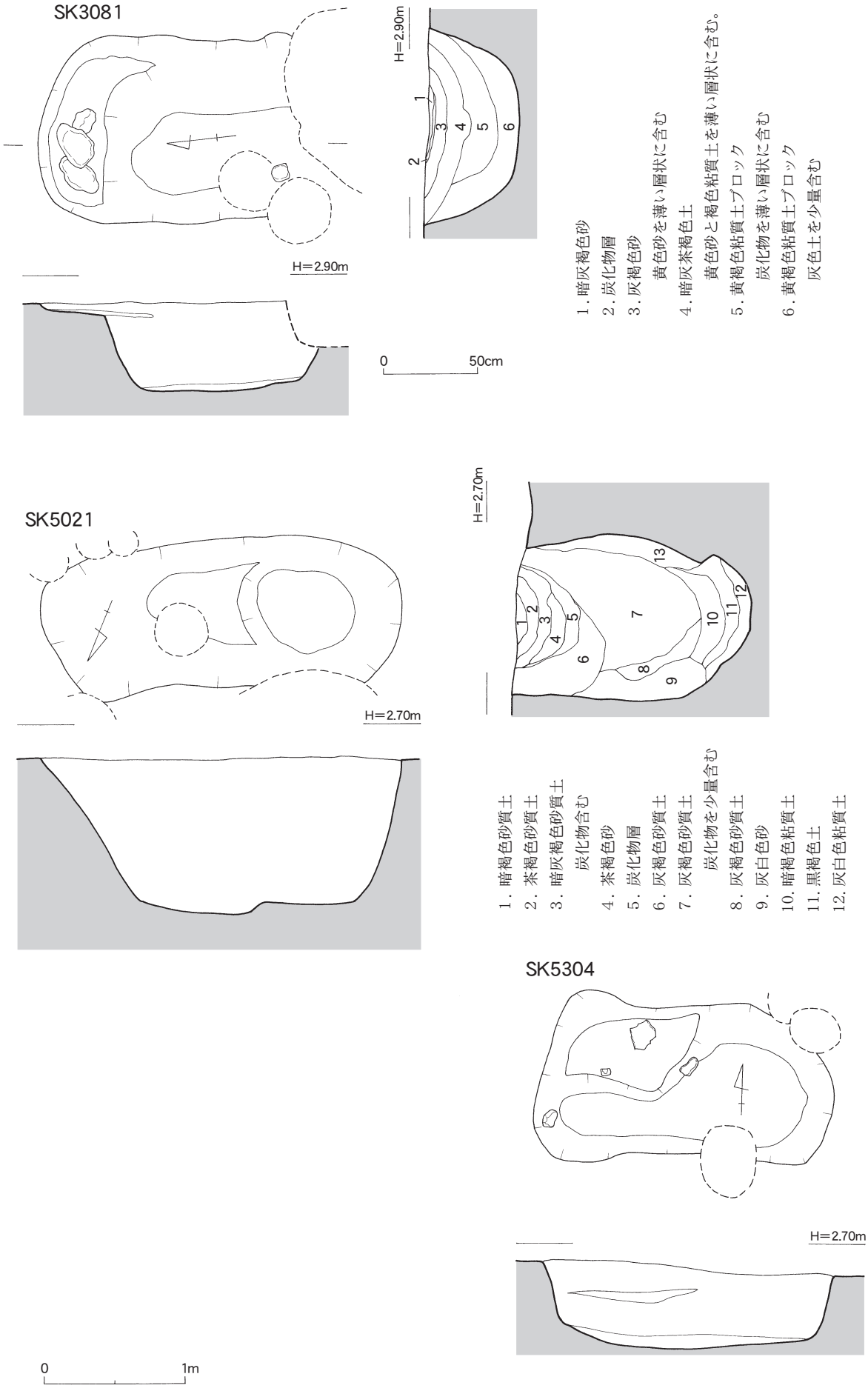




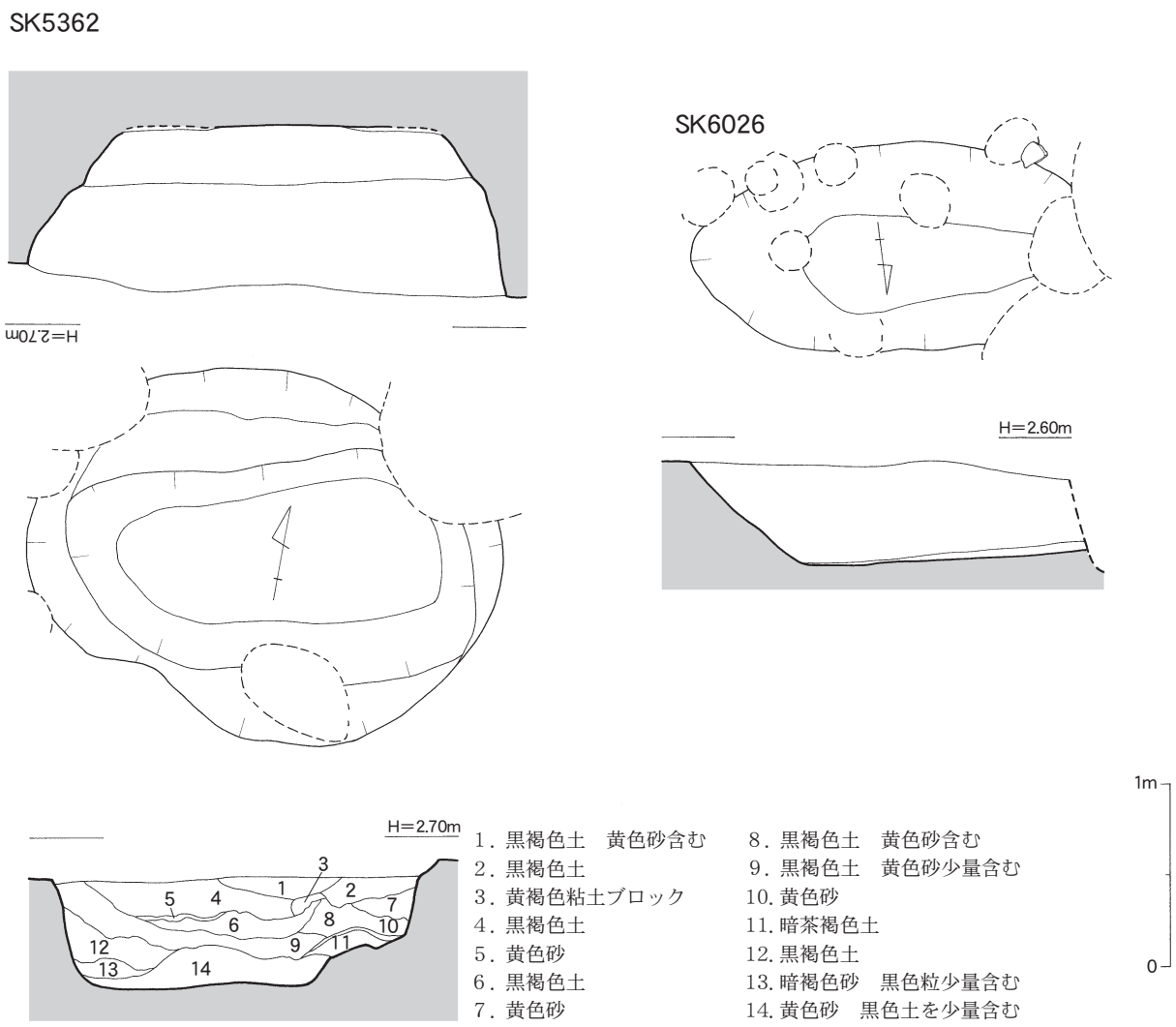
1．黒褐色砂質土
2．暗灰茶褐色砂質土
3．暗茶褐色粗砂
4．黄色砂
5．暗灰褐色砂質土



第 18 図　土坑実測図 5（1/30）



第 19 図　土坑実測図 6（1/40・3081 は 1/30）



第 20 図　土坑実測図 7（1/40）

4) 土坑

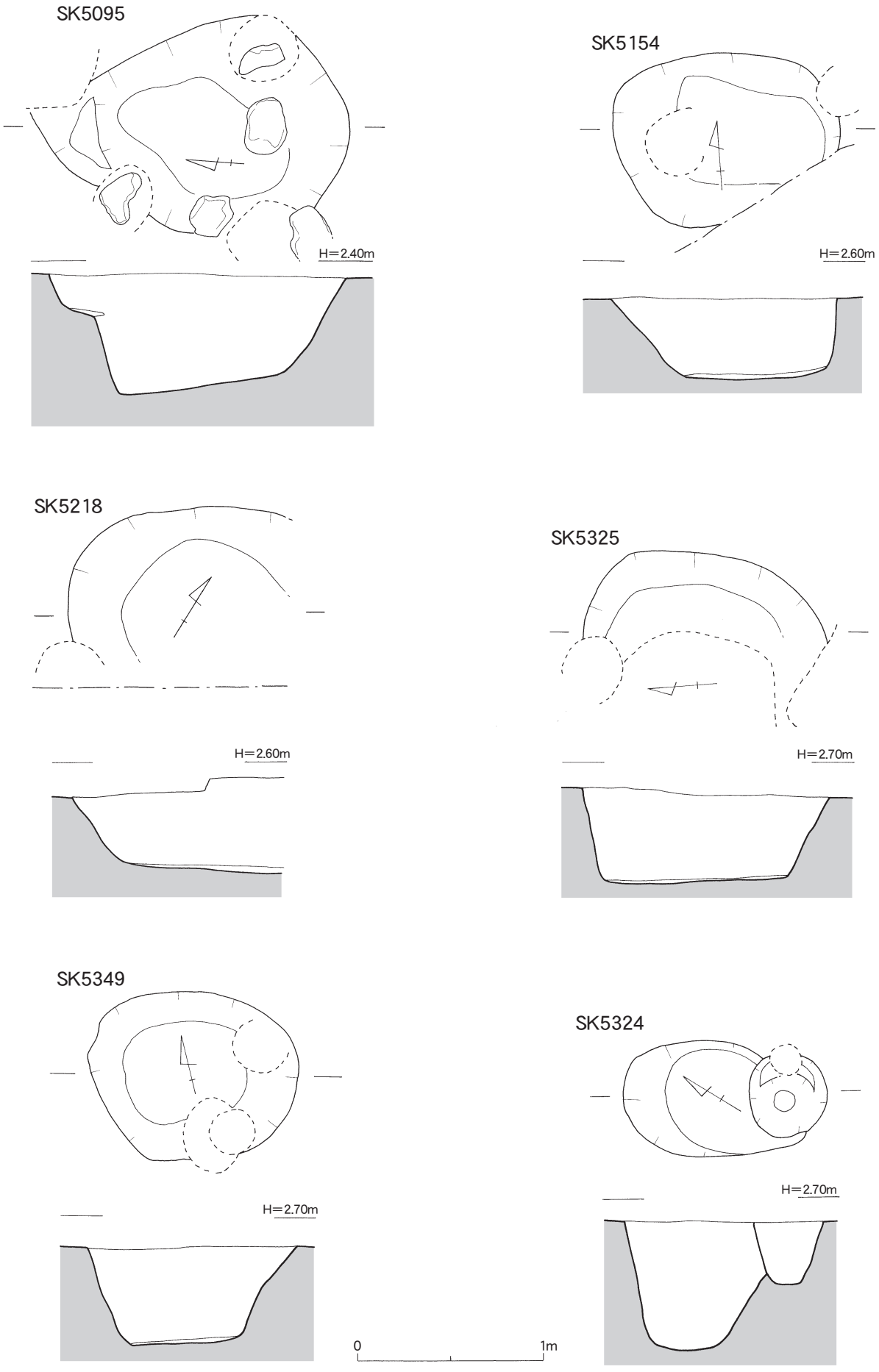
SK1021・1065(第 14 図)　Ⅰ区 1 面の道路側溝沿いに位置し、主軸を東西方向にとる。土坑を 1021、南側の敷石群を 1065 とする。1021 の平面は隅丸長方形で長径 1.6 m、深さ 15㎝を測る。断面は浅皿状を呈す。1065 は 1021 の縁に沿って礫が並び、一部は瓦が敷かれている。本来は面的に敷かれていたものと思われる。敷石は道路外に位置する可能性が高いため、舗装等ではなく土間のような性格のものであろうか。青磁碗片、瓦片が数点出土した。中世後半と考えられる。

SK1037(第 14 図)　第 1 面中央に位置し平面形は不正円形を呈す。径 1.1 m、深さ 56㎝を測る。断面は逆台形を呈す。灯明皿として使用した白磁皿などが出土した。16 ～ 17 世紀頃と考えられる。

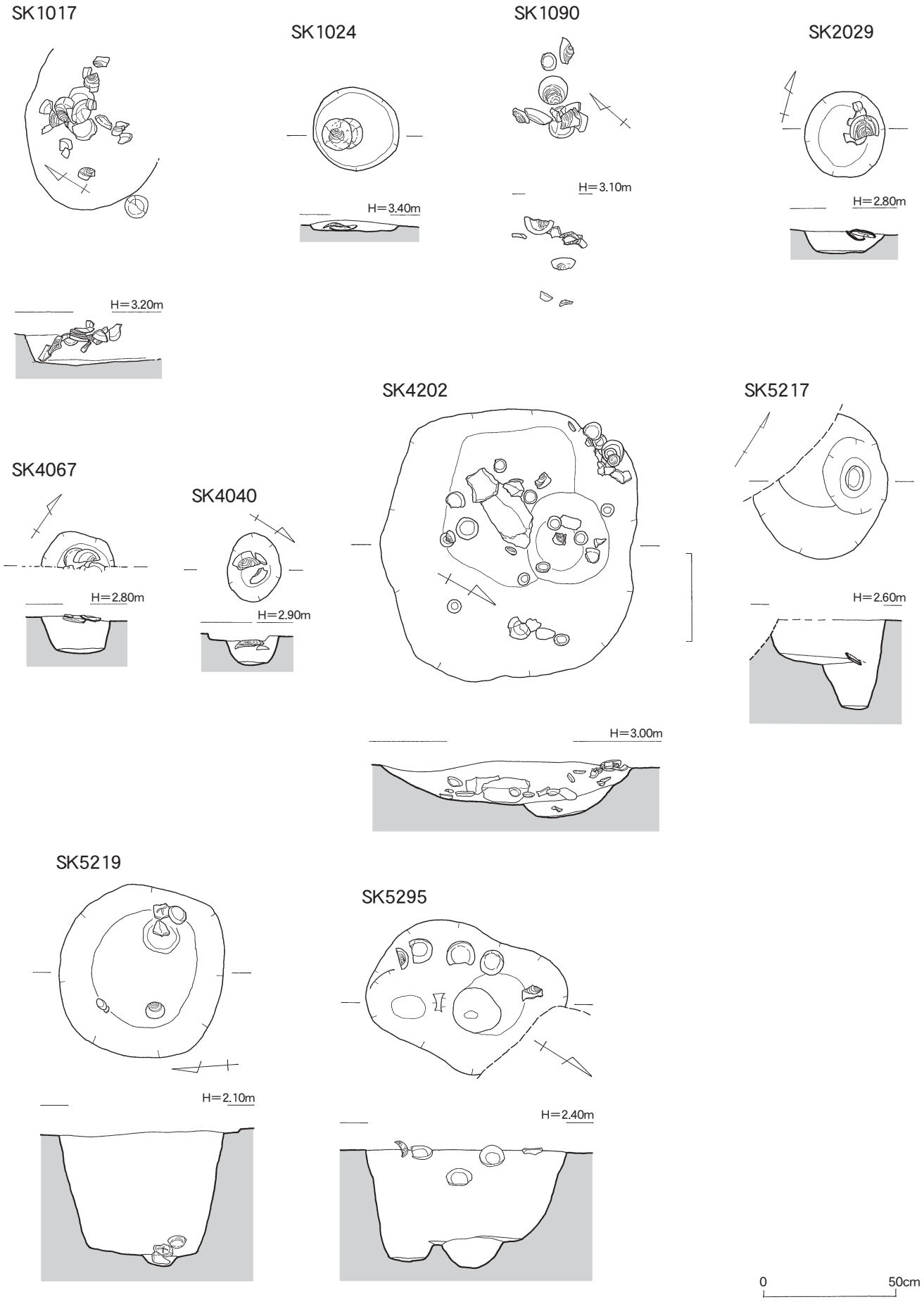
SK1125(第 16 図)　第 1 面西側に位置する。主軸を東西にとり、塀に沿う。平面は溝状を呈し長さ 1.6 m、深さ 32㎝を測る。断面は逆台形を呈す。龍泉窯系青磁片、白磁、陶器大甕、瓦などが出土したがいずれも小片でおり詳細は不明である。中世後半から近世前半頃と考えられる。

SK1148(第 18 図)　第 1 面西側の道路内に位置する。主軸を東西にとり側溝に沿う。平面は溝状を呈し長さ 149㎝、深さ 48㎝を測る。断面は逆台形を呈す。1m 東側に位置する SK1151 も同様に道路内で側溝に沿う。龍泉窯系青磁碗Ⅲ類、土錘などが出土した。14 世紀以降と考えられる。

SK1151(第 16 図)　第 1 面西側に位置し主軸を東西にとる。平面は長方形を呈し長径 83㎝、深さ 48㎝を測る。断面は逆台形を呈す。青磁碗、白磁皿Ⅸ類、黒釉陶器片、土師坏、瓦などの小片が出土した。中世後半と考

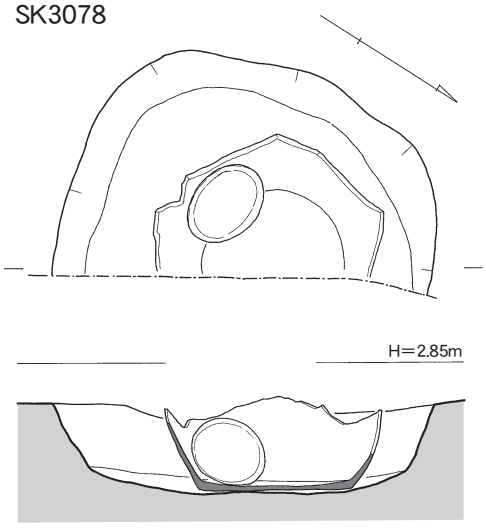


第 21 図　土坑実測図 8 (1/30)

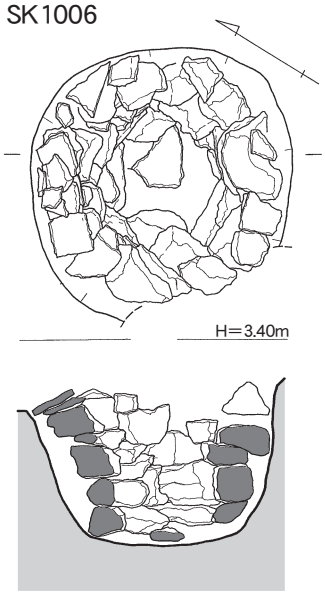


第 22 図　土坑実測図 9 (1/20)

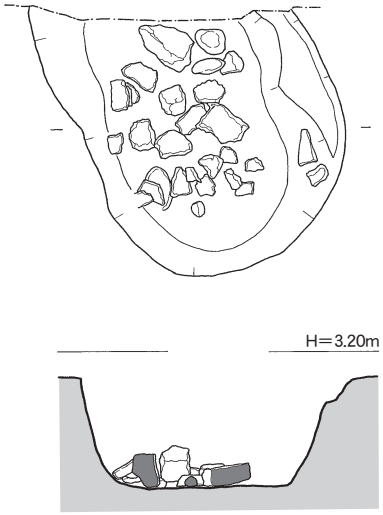
SK3078



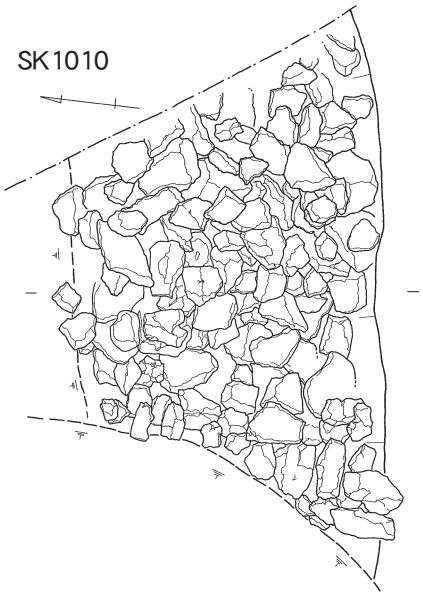
SK1006



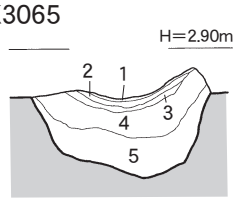
SK1069



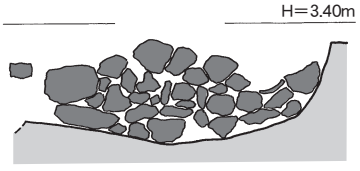
SK1010



SK3065

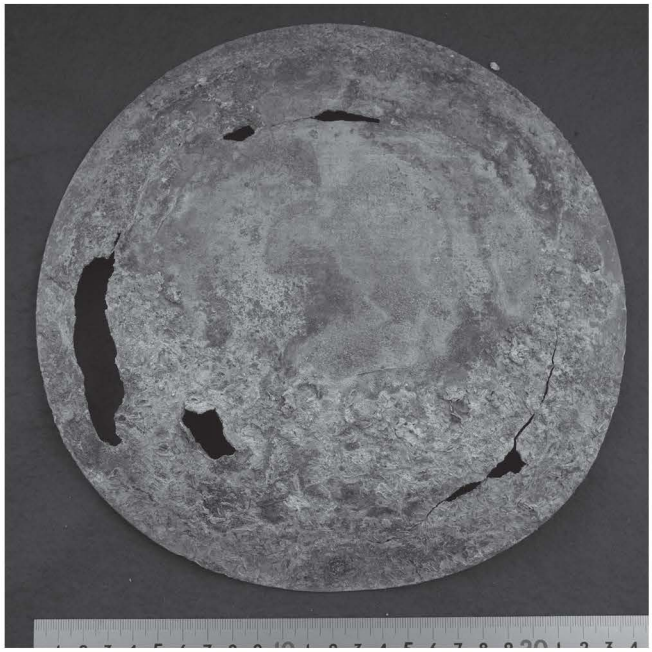


1. 炭化物層
2. 灰色砂質土
3. 暗灰褐色粘質土
4. 灰茶褐色砂質土
5. 灰茶褐色砂質土
   灰色粘質土を薄い層状に含む



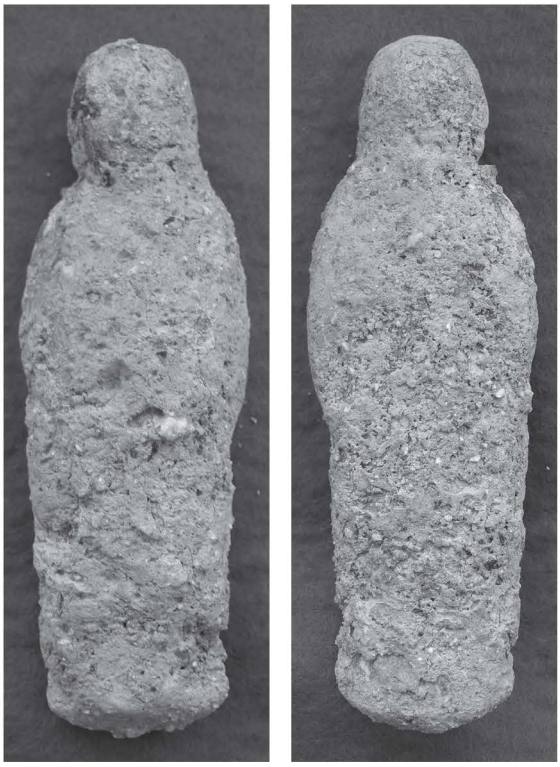
第 23 図　その他の遺構実測図 1 (1/20)

001



ST3078 出土　銅盤

002



3043 出土銅製仏像

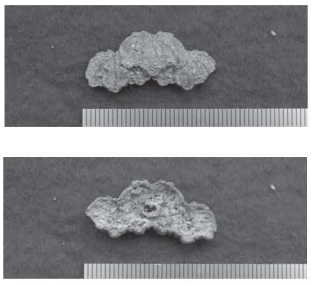
003

Ⅱ区 3 ～ 4 面掘下げ時出土 土製仏像頭

004

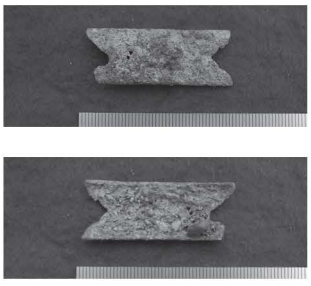
3074 出土　銅製品

005



Ⅰ区 3 面表採　銅製飾金具

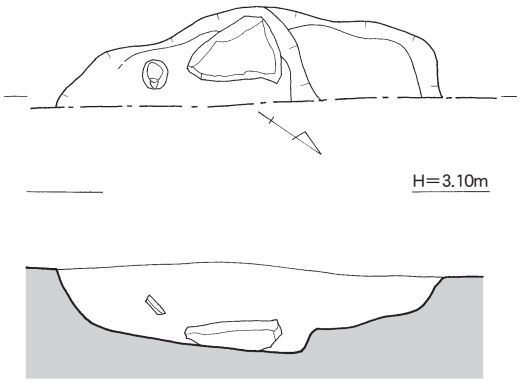
006



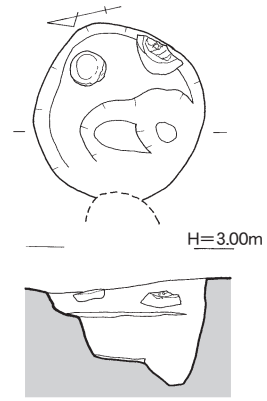
1008 出土　銅製飾金具

第 24 図　遺物写真

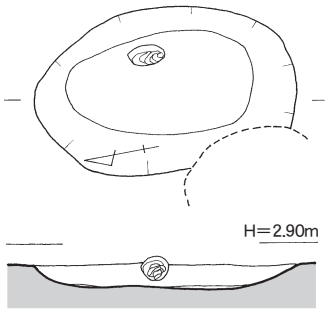
SK4043



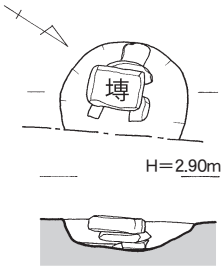
SP2035



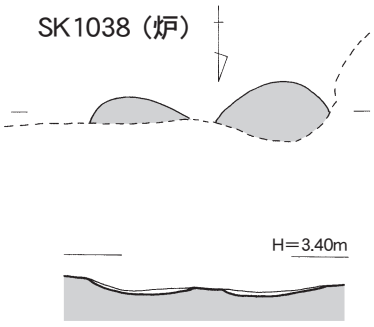
SK4096



SP4055

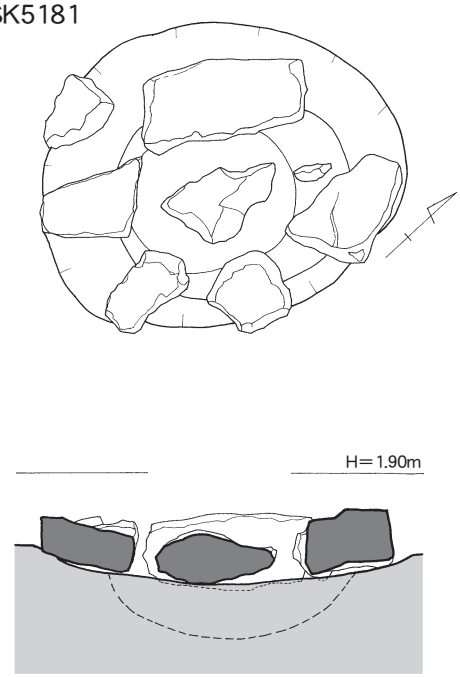


SK1038（炉）



第 25 図　その他の遺構実測図 2（1/20）

SK5181



SX4058

SX2079

第 26 図　その他の遺構実測図 3（1/20）

えられる。

SK1169(第 14 図) 第 1 面西端に位置し主軸を N-32° -W にとる。平面は長方形を呈し長径 152㎝、深さ 36㎝を測る。断面は浅皿状を呈す。製花碗片、瓦、炉壁が出土した。近世前半と考えられる。

SK1170(第 15 図) 第 1 面西端に位置し SK1169 に切られる。平面は不正形で長径 173㎝、深さは西側が一段浅く 22㎝、東側の最も深い部分で 33㎝を測る。16 ～ 17 世紀頃と考えられる。

SK3001(第 17 図) 第 3 面中央に位置し南側を SE2084 に切られる。平面は楕円形を呈し長径 1.2 m以上、深さ 59㎝を測る。断面は逆台形を呈す。瓦質鉢小片などが出土しており中世後半と考えられる。

SK3081(第 19 図) 第 3 面東端に位置し主軸を南北にとる。楕円形を呈すが南端を切られ、現状で南北 1.4 m、深さ 47㎝を測る。断面は逆台形を呈し胎土はレンズ状を呈す。中世後半頃と考えられる。

SK4001(第 16 図) 第 4 面北東側に主軸を南北にとる。平面は楕円形で長径 1.3 m、深さ 36㎝を測る。断面は逆台形を呈す。土師坏が多く出土した他、天目碗、土鍋、土師皿 (灯明皿あり)、須恵質中型甕、土師質擂り鉢、陶器 (甕？) などが出土した。14 世紀頃と考えられる。

SK4094(第 17 図) 第 4 面東側に位置する。平面は不正方形で長径 1m、深さ 16㎝を測る。南側を除く 3 方に平坦面を持つ。龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、瓦、瓦質捏鉢、土師坏、土師皿 (1 点灯明皿) など 12 ～ 13 世紀の遺物を主とするが切り合いから 14 世紀頃になる可能性がる。

SK5007(第 14 図) 第 5 面東側に位置する。平面は円形を呈し径 124㎝、深 81㎝を測る。断面は逆台形を呈す。青磁碗小片、硯片 (赤間石) などが出土した。中世前半と考えられる。

SK5021(第 19 図) 第 5 面東端に位置し主軸を N-68° -E にとる。平面は溝状を呈し長さ 2.6㎝、深さ 110㎝を測る。断面は U 字状を呈す。埋土はレンズ状を呈す。龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、同安窯系青磁碗、青磁皿 (小片多)、白磁碗、白磁皿Ⅸ類、白磁合子、陶器壺 (13 ～ 14C)、陶器皿・鉢、須恵質鉢、不明須恵器、瓦質椀、瓦質捏ね鉢、土鍋、土師椀、土師坏 (破片多　数点灯明皿あり)、土師皿 (小片多　1 点底部穿孔)、丸瓦、小刀、鉄釘、砥石など多種の遺物が出土した。14 世紀頃と考えられる。

SK5024(第 18 図) 第 5 面東側に位置する。平面は円形を呈し径 1.8㎝、深さ 113㎝を測る。断面は逆台形を呈す。13 世紀頃と考えられる。

SK5059(第 17 図) 第 5 面東端に位置する。平面は円形を呈し径 91㎝、深さ 81㎝を測る。断面は逆台形を呈す。12 世紀後半から 13 世紀頃と考えられる。

SK5022・5064(第 15 図) 第 5 面東側南縁に位置する。大半が調査区外に伸びる。13 ～ 14 世紀か。

SK5081(第 16 図) 第 5 面東側に位置し主軸を南北にとる。平面は楕円形を呈し長径 98㎝、深さ 90㎝を測る。断面は逆台形を呈す。同安窯系青磁碗土鍋などが出土した。12 世紀後半と考えられる。

SK5084(第 16 図) 調査区東側に位置し主軸を南北にとる。平面は溝状を呈し長さ 90㎝、深さ 56㎝を測る。底面は南端に柱穴状の窪みがある。12 ～ 13 世紀頃と考えられる。

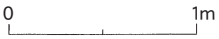
SK5085(第 15 図) 第 5 面中央東寄りに位置し主軸を N-43° -W にとる。平面は楕円形を　呈し長径 1.5 m、深さ 49㎝を測る。東西両側にテラスを持つ。12 ～ 13 世紀頃と考えられる。

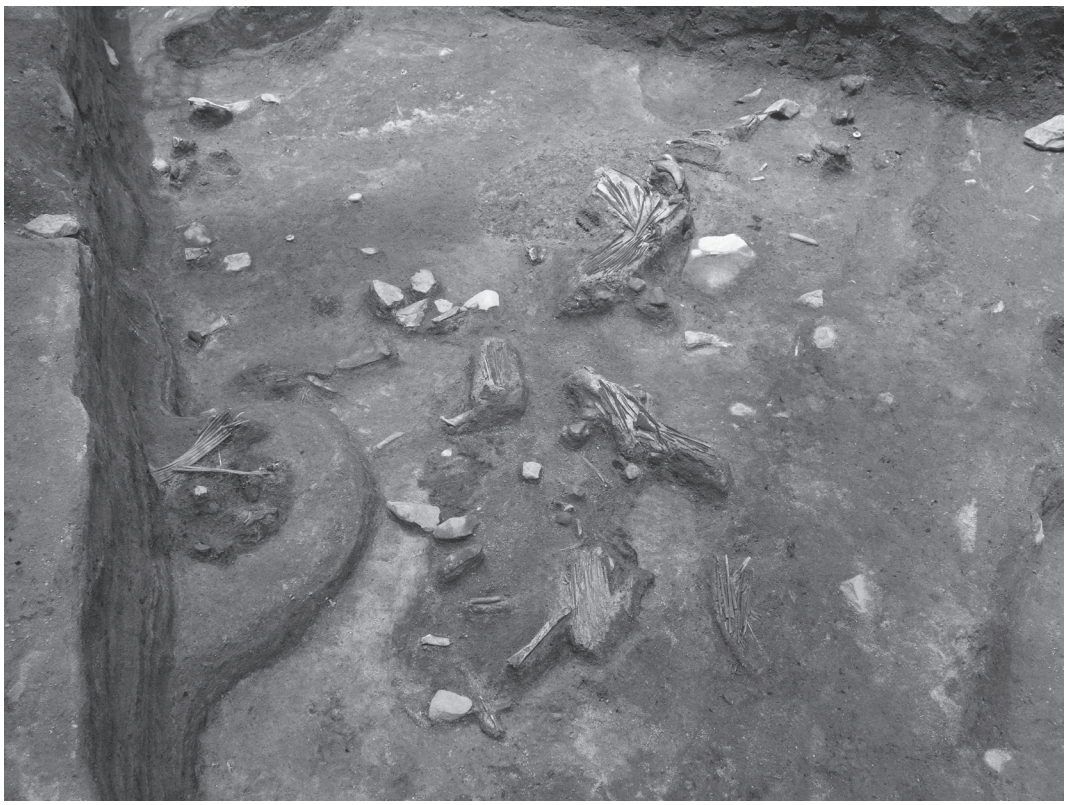
SK5095(第 21 図) 第 5 面中央北東寄りに位置し不正形を呈す。長径 1.7 m、深さ 61㎝を測る。断面は北側に平坦面を持ち、底面は北側に向かって傾斜する。13 世紀と考えられる。

SK5115(第 15 図) 第 5 面中央東寄りに位置する。遺構の大半が基準杭の土台下になる。平面は隅丸方形で主軸は南北方向と思われる。長径 1 m前後、深さ 30㎝を測る。12 世紀前半頃と考えられる。

SK5129(第 14 図) 第 5 面東端に位置し主軸を N-57° -E にとる。平面は楕円形を呈し長径 159㎝、深さ 124㎝を測る。断面は逆台形を呈す。同安窯系青磁碗、龍泉窯系青磁碗Ⅰ類、白磁小椀、陶器小盤Ⅰ類、陶器碗、

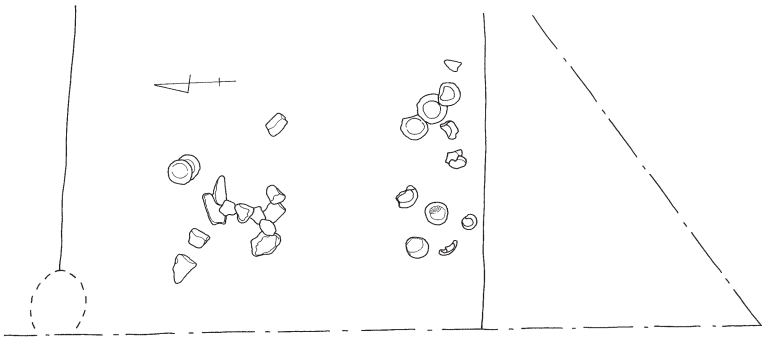
3074（第 3 面路面）





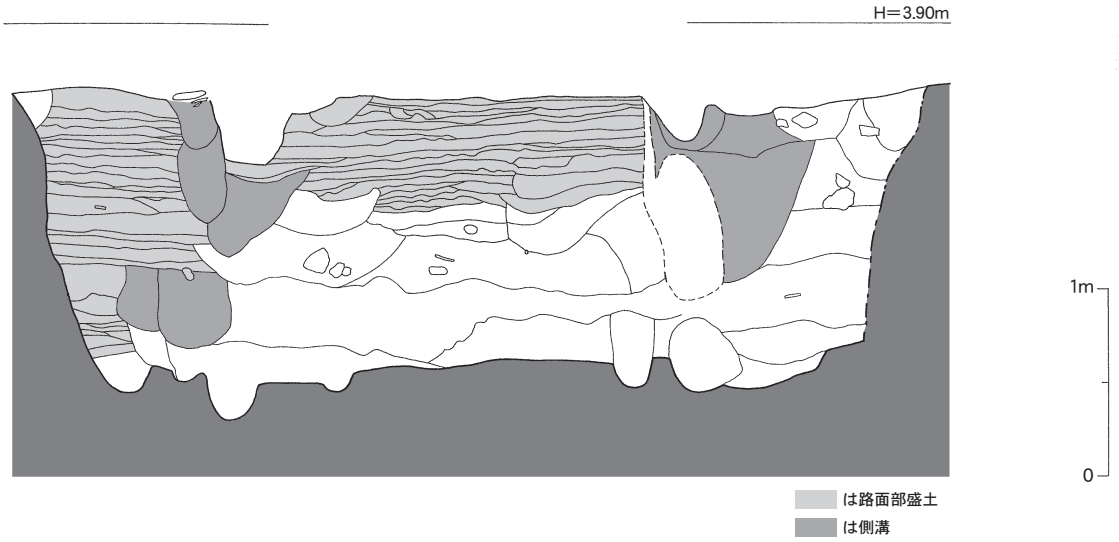
第 27 図　第 3 面路面遺物出土状況（1/40）

4218（第 4 面路面）



第 28 図　第 4 面路面遺物出土状況（1/40）

Ⅱ区西端道端道路土層



第 29 図　道路土層図 (1/40)

陶器耳壺、土師坏、土師皿 (破片多　灯明皿あり)、須恵器編、土鍋、滑石片、砥石など多様な遺物が出土した。12 世紀後半から 14 世紀頃と考えられる。

SK5136(第 14 図)　SK5007 の北東側に位置する。円形を呈し、径 1m、深さ 122㎝を測る。断面は逆台形を呈す。龍泉窯系青磁碗、同安窯系青磁碗、白磁片、陶器片 (甕、盤)、瓦質鉢、土師坏片 (1 点は灯明皿)、温石石 (滑石製石鍋再利用) などが出土した。12 世紀末～ 13 世紀頃と考えられる。

SK5154(第 21 図)　第 5 面東側南縁に位置し主軸を東西にとる。平面は隅丸方形を呈し長径 123㎝、深さ 43㎝を測る。断面は逆台形を呈す。龍泉窯系青磁片が出土した。12 世紀後半と考えられる。

SD5176(第 16 図)　第 5 面中央東寄りに位置し主軸を N-68° -W にとる。平面は溝状を呈し長さ 85㎝、深さ 35㎝を測る。断面は逆台形を呈す。同安窯系青磁碗、白磁皿Ⅸ類、土師坏、土師皿、土器片などが出土した。14 世紀頃と考えられる。

SK5185(第 14 図)　第 5 面東端南縁に位置し遺構の南半が調査区外である。平面は円形と思われ、径は 1.6 m前後を測る。深さは 80㎝で断面は擂鉢状を呈す。同安窯系青磁碗、白磁碗、陶器盤、陶器鉢、須恵質皿、瓦質片、土師坏皿片が出土した。12 世紀後半頃と考えられる。

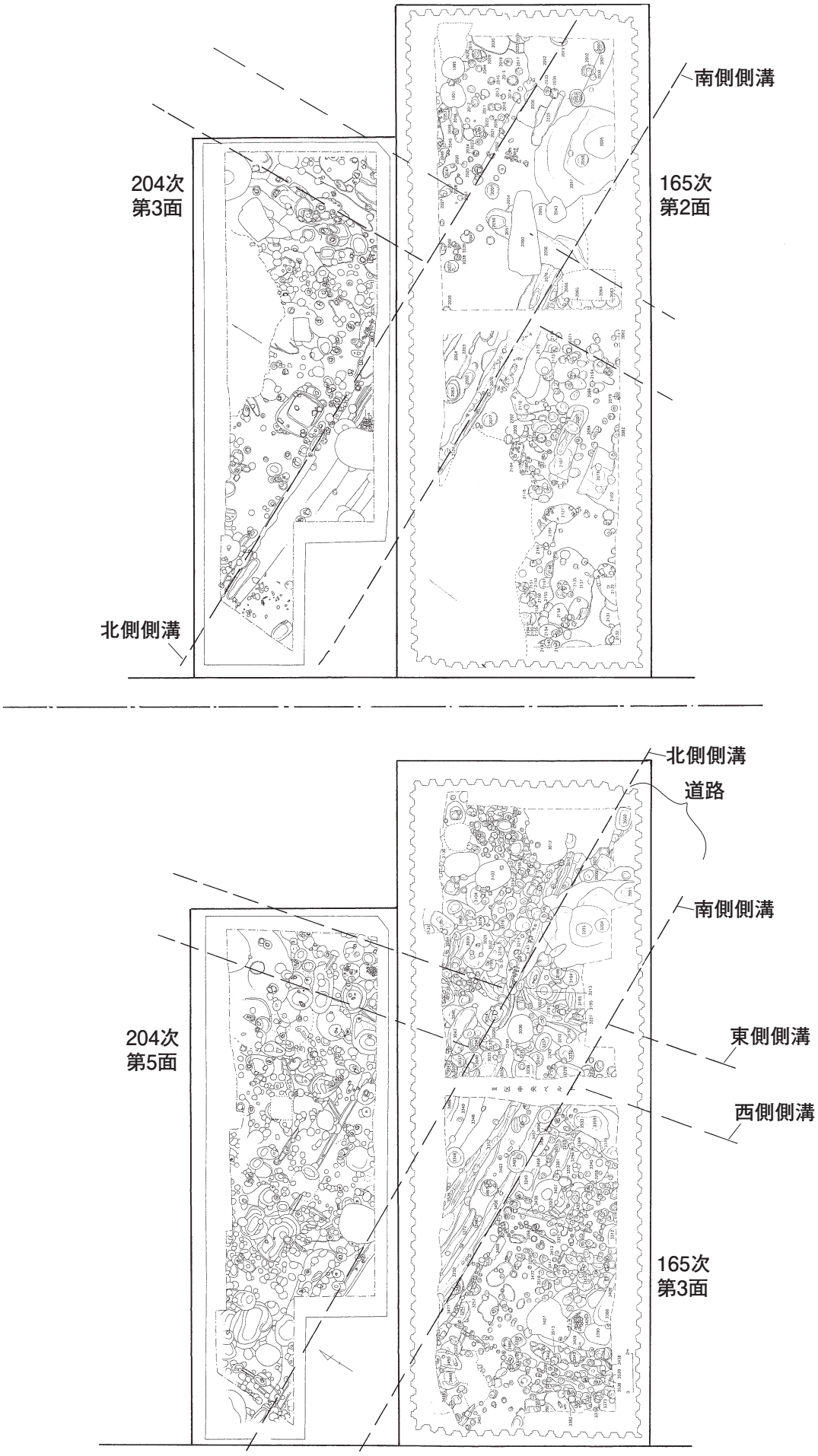
SK5218(第 21 図)　第 5 面西側南縁に位置し遺構南半は調査区外である。東西径 1.2 mを測る。断面は逆台形を呈す。龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、白磁皿Ⅳ -2 類、褐釉陶器片、須恵質鉢、土鍋、土師坏、土師皿 (灯明皿片あり) が出土した。14 世紀前半頃と考えられる。

SK5257(第 18 図)　第 5 面中央南縁に位置する。平面は円形を呈し径 1.3 m、深さ 95㎝を測る。断面は箱形を呈し、埋土はレンズ状である。龍泉窯系青磁碗、同湾窯系青磁碗、褐釉壺、白磁碗、須恵質鉢、土師質盤 (火鉢？)、土鍋、土師坏、土師皿が出土した。13 世紀末～ 14 世紀前半と考えられる。

SK5304(第 19 図)　第 5 面中央西寄りに位置し主軸を東西にとる。平面は不正楕円形を呈し長径 2.1 m、深さ 59㎝を測る。断面は箱形を呈す。古代末～中世初頭と考えられる。

SK5306(第 18 図)　第 5 面中央西寄りに位置し主軸を東西にとる。平面は隅丸長方形で長径 1.6 m、深さ 42㎝を測る。中央が深く、南側を除く 3 方に平坦面が巡る。遺物は土師坏小片のみである。

SK5324(第 21 図)　第 5 面西側に位置し主軸を N-32° -W にとる。平面は楕円形で長径 1 m、深さ 69㎝を測る。断面は逆台形を呈す。白磁片と土師坏片が出土した。12 ～ 13 世紀と考えられる。



第 30 図　165 次・204 次　道路位置図 (1/300)

SK5325(第 21 図) 第 5 面中央に位置し主軸を南北にとる。西半を切られており平面形は不明である。現状で南北 1.3 m、深さ 53㎝を測る。断面は逆台形を呈す。中世前半と考えられる。

SK5344(第 14 図) 第 5 面西側に位置する。平面は楕円形を呈し長径 1.2 m、深さ 43㎝を測る。断面は北側に平坦面を持つ。龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、白磁碗、陶器盤、陶器鉢が出土した。14 世紀前半か。

SK5349(第 21 図) 第 5 面調査区西側に位置し主軸を東西にとる。平面は楕円形を呈し長径 1.1 m、深さ 53㎝を測る。断面は逆台形を呈す。龍泉窯系青磁坏、土師皿、瓦器椀、土師坏、陶器大甕片が出土した。14 世紀前半頃と考えられる。

SK5362(第 20 図) 第 5 面西端に位置し、主軸を東西方向にとる。平面は楕円形で長径 2.6 m、深さ 88㎝を測る。断面は逆台形で底面から 30㎝上で段がつく。龍泉窯系青磁 (碗Ⅰ・Ⅱ類、皿)、同安窯系青磁碗、白磁皿Ⅱ -2b、陶器壺、陶器大甕、須恵質鉢 (12C 後半)、土師質捏ね鉢 (東播系模倣？)、土師甕、土師坏、土師皿、須恵質平瓦、鉄釘などが出土した。12 世紀末～ 13 世紀頃と考えられる。

SK5363(第 14 図) 第 5 面西側に位置する。南北両端を切られ平面形等は不明である。現状で東西 1.1 m、深さ 47㎝を測る。断面は逆台形を呈す。龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、白磁碗、土鍋、土師坏、土師皿などが出土した。13 世紀前半頃と考えられる。

SK5403(第 17 図) 第 5 面西端に位置し、遺構の大半が調査区外である。現状で長さ 1.5 m、深さ 62㎝を測る。龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類、同安窯系青磁碗、白磁片、褐釉陶器片、陶器大甕、須恵質片口鉢、須恵質鉢 (12C 後～ 13C 前)、土師坏 (破片多) などが出土した。12 世紀末～ 13 世紀と考えられる。

SK6026(第 20 図) 第 6 面中央に位置し、主軸を東西にとる。平面は溝状を呈し、現状で長さ 2.2 m、幅 1.15 m、深さ 53㎝を測る。同安窯系青磁 (碗、皿)、陶器 (盤？)、瓦器椀、土師坏、土師皿が出土した。12 世紀後半と考えられる。

SK1017(第 22 図) 第 1 面東側に位置し西側は攪乱に切られる。平面は楕円形で径 1m 強を測る。土師坏、皿がまとまって出土した。中世後半～近世前半と思われる。

SK1024(第 22 図) 第 1 面東側に位置する。平面は円形で径 32㎝、深さ 4㎝を測る。土師坏が上下合わさった状態で出土した。遺物は土師坏 2 枚のみである。

SK1090(第 22 図) 第 1 面東側に位置する。整地層の掘り下げ中に出土して堀方は不明である。土師坏・皿がまとまって出土した。

SK2029(第 22 図) 第 2 面東側に位置する。平面は円形で径 30㎝、深さ 8㎝を測る。底面から浮いた状態で土師坏が出土した。下側の身がずれて細片化しているが、本来は完形だったと思われる。

13 ～ 14 世紀頃の青磁片が 1 点出土した。

SK4040(第 22 図) 第 4 面東側に位置する。平面は円形で径 26㎝、深さ 12㎝を測る。底面から 6㎝浮いて土師坏がうつぶせの状態で出土した。遺物は他に同安窯系青磁碗、陶器片、土師質鉢などがあり 12 世紀後半以降と考えられる。

SK4067(第 22 図) 第 4 面東側に位置する。南半が調査区外に延びる。径 26㎝、深さ 13㎝を測り、断面は逆台形を呈す。土師坏・皿が出土した。坏・皿とも破片は多くどちらも数点を灯明皿として使用している。遺物はその他に白磁碗片などが出土した。13 ～ 14 世紀と考えられる。

SK4202(第 22 図) 第 4 面下の整地層である。平面は隅丸方形で主軸を N-23° -W にとる。径 1.5 m、深さ 30㎝を測る。底面から若干浮いた状態で土師坏・皿片が多くが出土した。土師皿は径の 1/2 以上が残るのが 26 枚で、そのうち 3 枚は灯明皿として使用している。遺物はそのほかに同安窯系青磁片、龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、陶器片 (大甕？)、土鍋、瓦質擂り鉢、土師椀、滑石製石鍋片、炉壁、石玉などが出土した。12 世紀後半から 13 世紀頃と考えられる。

SK5217(第 22 図)　第 5 面西側に位置する。平面は円形を呈し、径 50㎝、深さ 15㎝を測る。東端が柱穴状に 16㎝程深くなっており、そこから土師坏・皿が出土した。遺物はその他に同安窯系青磁碗、白磁碗Ⅴ類、陶器片 (甕？)、須恵気質鉢、瓦器椀などが出土した。12 世紀後半と考えられる。

5) その他の遺構

ST3078(第 23 図)　第 3 面東端に位置する近世甕棺墓である。甕の上半部は削平され、底部のみ出土した。掘方径 105㎝、深さ 23㎝、甕底径約 40㎝を測る。甕内部から銅製の盤が出土した。甕は半分は取り上げ、土層観察用ベルトにくい込んだ部分はベルトの崩壊を防ぐため調査終了時に取り上げる予定にしていた。しかし現場終了間際の集中豪雨で壁が崩壊し SE1009 内に落ち込んだ。事故防止のため、そのまま井戸を埋め戻したため、残り半分は取り上げることができなかった。出土遺物 (第 24 図 001) は銅製盤である。土圧のためかやや曲がっている。径 24㎝を測る。

SK1006(第 23 図)　第 1 面東端に位置する石積土坑である。掘方径は 70㎝、深さ 45㎝、石室は東西を意識した雑な方形で東西が約 35㎝、南北が 30㎝を測る。石は径 10 ～ 15㎝程の角礫を使用している。遺物は瓦質瓦 (丸・平) や陶器蓋小片のみで詳細は不明である。近世と考えられる。

SK1069(第 23 図)　Ⅰ区 1 面で出土した。底面直上で礫が出土した。埋土内から瓦がパンケース 2 箱分出土した。瓦は土師質と瓦質でそれぞれ丸瓦、平瓦を含む。破片は大きい。その他に陶器碗 (近世)、龍泉窯系青磁、陶器大甕、土師坏、土師皿、土鍋、陶器皿などが出土した。

SK1010(第 23 図)　Ⅰ区北端に位置する。SE1009 と撹乱に切られ平面形などは不明である。現状で東西 150㎝、南北 80㎝を測る。10 ～ 15㎝前後の角礫が隙間なく詰まっていた。詳細は不明であるが、建物基礎等の可能性が考えられる。陶器大甕 (小片で別個体が数点ずつ出土　近世)、や瓦小片が出土した。陶器大甕はすぐとなりに位置する ST3078 と関連があるのであろうか。

SK3065(第 23 図)　3 面中央東側で検出した炉である。炉は径 30㎝、深さ 16㎝のピット状に掘り下げた後、粘質土をレンズ状に貼り付けている。出土遺物はなく詳細は不明である。

SK5181(第 26 図)　5 面東端で検出した。火葬墓もしくは火葬土坑である。平面形は楕円形を呈し、長径 97㎝、短径 80㎝を測る。2 ～ 40㎝の上面が平坦な礫を 7 個配置している。礫は被熱のため全体が赤化している。骨片は多くみられたが、墓にしては少ないことなどから火葬後骨を取り上げたものと考えられ、火葬土坑であったと考えている。礫を取り上げた後、遺構検出したところ中央で径 65㎝、深さ 20㎝弱の掘り込みを確認した (断面図の点線　SK5194)。火葬土坑の下部組織かどうかは不明である。遺物は 5181 から龍泉窯系青磁片 1 点、5194 から同安窯系青磁碗片が出土した。12 世紀後半か。

SX4058(第 26 図)　第 4 面東側南縁に位置する。焼土ブロックを多く含む整地土の下に旧表土の段落ちがあり、土器が集中して出土した。土器は土師坏を主とする。整地時の祭祀の可能性がある。13 後半～ 15 世紀前半頃か。

SX2079(第 26 図)　第 2 面中央部で検出した。整地層掘り下げ中に 2m 程の範囲で炭化物と土師皿、銅銭が集中して出土した。土器は土師坏、土師皿で灯明皿として使用されたものもある。銅銭は 14 枚出土した (表 1 ～ 4)。最も新しい銅銭は 1368 年が初鋳年の洪武通寶である。整地時の祭祀か。14 世末紀～ 16 世紀頃と考えられる。

SP4055(第 25 図)　第 4 面東端に位置する。根石として土製の埒を使用する。胎土は粗砂を多く含む。埒の下に 15㎝ほどのグリ石を入れている。遺物は龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、白磁片、陶器片、土鍋片、土師坏・皿と出土しているがいずれも小片で詳細は不明である。12 世紀以降である。

SK1038(第 25 図)　第 1 面東端に位置し、北側を SK1010 に切られる。径 30㎝程の焼土面が 2 つ並ぶ。焼土面は浅皿状に窪ませた程度で下部構造は存在しない。

6) 道路状遺構

SX1183(図版 15-4)　第 1 面中央 (Ⅱ区) で出土した敷石である。側溝が途切れた部分にあたり、道路面か道路外かは不明である。土坑等に破壊されており 1 × 1 mの範囲のみ遺存する。Ⅰ区で検出した敷石の SK1065 とつながる可能性もあるが不明である。敷石が出土した地点は道路北側の側溝が幅 1.5 mほど途切れており (第 1 面検出の SD1141 と第 2 面検出の SD1089)、出入り口部分に伴う敷石であった可能性も考えられる。礫の間から瓦片、土鍋、土師質片口鉢などの小片が出土した。

SX3074(Ⅱ区 3 面道路面)　Ⅱ区 3 面南西端の路上で出土した遺物群である。礫群と土師坏の他に獣骨が多く出土した。出土したのはイルカ類椎骨と魚類の尾鰭が多い。特に魚類尾鰭はカツオ、マグロ等の大型魚類と考えられる。

SX4218(Ⅱ区 4 面道路面)　Ⅱ区 4 面南西端の路上で出土した遺物群である。土師坏 10 枚前後 (1 枚は灯明皿として使用)、土師皿数枚の他、龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、褐釉陶器片 (甕か壺)、須恵質片口壺 (東播系　13C)、瓦質捏ね鉢などが出土した。13 世紀後半～ 14 世紀前半頃と考えられる。

7) その他の遺物

(1) 仏像その他　第24図002は銅製の仏像である。SP3043から出土した。完形品で高さ10.3㎝、幅3.4㎝を測る。14 ～ 15 世紀頃か。003 はⅡ区の包含層を 3 から 4 面に掘り下げる途中で出土した土製仏像の頭部である。高さ 4㎝、幅 3.15㎝を測る。暗赤褐色を呈す。中世中頃から後半頃であろうか。204 次調査区は中世に栄えた妙楽寺の境内に近いと考えられており、それに関係する遺物の可能性がある。3074 はⅡ区 3 面で検出した路面上の SX3074 から出土した不明銅製品である。欠損しているが現状で長さ 6.5㎝を測る。端部に孔があり、吊り下げて使用した可能性がある。005 はⅠ区第 3 面で遺構検出時に表採した桐の葉文の銅製飾り金具である。裏で鋲を留める仕様になっている。幅 2.98㎝、高さ 1.37㎝、厚さ 4.1㎜を測る。006 は道路際で敷石代わりに使用していた瓦に銅線とともに張り付いて出土した銅製飾り金具である。長さ 4.34㎝、幅 1.72㎝、厚さ 3.7㎜を測る。瓦の径 3㎜ほどの穿孔部近くに張り付いて出土しており、瓦の滑止めにつける飾りであろうか。今回の調査では銅製品の破片が多く出土した。飾り金具の破片と思われるものが多いが、他にはキセル吸口、耳掻き、銅製鍋、銅製碗と思われる破片も出土している。

(2) 銅銭 (表 1 ～ 4)　204 次調査で出土した銅銭は小片を除くと遺構出土が 287 枚、包含層掘り下げ中に出土したものが 312 枚で計 599 枚を数える。このうち銭種が判明したのは 369 枚で最も古いのは初鋳年が 621 年の開元通寶、最も新しいのは初鋳年が 1408 年の永楽通寶である。銭種も多く、一つの土坑から出土した銅銭も多様で一つの銭種に偏よる傾向はみられない。

(3) 動物遺存体　多くの動物遺存体が出土したが、現在整理中である。現時点では道路面での出土が目立ち、Ⅱ区 3 面 (SX3074) では大型魚類の尾鰭が数点出土した。多くは腐敗のためバラバラになっていたが、中には若干ばらけているものの元の連結状態を残した尾鰭もみられた。肉がほとんど無い尾鰭を切り落として路面に廃棄しているが、腐敗してバラバラになるには数日かかったはずであり、当時の路面は廃棄された塵が片付けられずに散乱した状態だったと思われる。出土した動物遺存体のうち魚類はマグロ類と思われる尾鰭の他、フグ類やマダイが少量出土した。出土点数はイルカ・クジラ類が最も多く椎骨や肋骨、下顎などが出土したのに対し陸上哺乳類は少なく、イヌやイノシシ・シカが少量みられる程度で、13 世紀後半以降陸上哺乳類に比べ海棲哺乳類が多いのは博多遺跡群全体

表 1　出土銅銭一覧 1

出土遺構	銭種	枚数	初鋳年
1001	熙寧重寶・折二銭	1	1071
	元祐通寶	1	1086
	永楽通寶	1	1408
	大観通寶	1	1107
	□□元寶	1	
	天聖元寶	1	1023
	元符通寶	1	1098
	判読不能	4	
1002	熙寧元寶	1	1068
1009	判読不能	1	
1009 掘方	判読不能	1	
1013	嘉祐通寶	1	1056
	政和通寶	1	1111
1016	判読不能	1	
1017	祥符通寶	1	1009
	元符通寶	1	1098
1022	元豊通寶	1	1078
1042	皇宋通寶	1	1038
1045	皇宋通寶	1	1038
1056	開元通寶	1	621
	永楽通寶	1	1408
	?元重（寶）	1	758
1056 攪乱	判読不能	1	
1059	元祐通寶	1	1086
1060	判読不能	1	
1068	判読不能	1	
1069	洪武通寶	1	1368
	元符通寶		1098
1072	元豊通寶		1078
1074	判読不能	2	
1142	判読不能	1	
1148	判読不能	2	
1156	判読不能	1	
1163	永楽通寶	1	1408
1164	判読不能	1	
1170	判読不能	2	
2003	判読不能	1	
2006	判読不能	3	
2007	皇宋通寶	1	1038
2026	元豊通寶	1	1078
2027	聖宋元寶	1	1101
2039	皇宋通寶	1	1038
	判読不能	1	
2041	淳化元寶	1	990
2042	開元通寶	1	621
2043	紹定通寶	1	1228
	天聖元寶	1	1023
	判読不能	1	
2046	熙寧元寶	1	1068
2051	判読不能	1	
2052	判読不能	1	
2054	咸平元寶	1	998
2056	判読不能	1	
2068	判読不能	1	
2078 周	永楽通寶	1	1408
	天禧通寶	1	1017
	（元）祐通（寶）	1	1086
	至道（元）寶	1	995
	判読不能	3	

出土遺構	銭種	枚数	初鋳年
2079	開元通寶	1	621
2079A	熙寧元寶	1	1068
	判読不能	1	
2079 整地層	祥符□寶	1	1009
	熙寧元寶	1	1068
	洪武通寶	2	1368
	大観通寶	2	1107
	元□通寶	1	
	祥符元寶	2	1009
	咸平元寶	1	998
	開元通寶	1	621
	熙寧元寶	1	1068
	元符通寶	1	1098
	判読不能	1	
2083	皇（宗）通（寶）	1	1038
2088	紹聖元寶	1	1094
2107	元豊通寶	1	1078
	判読不能	1	
2108	判読不能	1	
2171	判読不能	1	
3002	開（元）通（寶）	1	621
3018	景徳（元寶）	1	1004
3032	元符（通寶）	1	1098
3044	熙寧元寶	1	1068
3074	大観通寶	1	1107
3074 下	元豊通寶	1	1078
	嘉祐元寶	1	1056
	判読不能	1	
3077	判読不能	1	
3079	大観通寶	1	1107
	判読不能	1	
3084	判読不能	1	
3085	永楽通寶	1	1408
3135	（大）観（通寶）	1	1107
3193	天禧通寶	1	1017
4001	判読不能	3	
4002	元祐通寶	1	1086
	開元通寶	1	621
	天聖元寶	1	1023
4019	至和通寶	1	1054
4024	皇宋通寶	1	1038
4028	判読不能	3	
	大□通□	1	
4030	判読不能	2	
4034	元□□寶	1	
	皇（宗）通寶	1	1038
4046	天禧通寶	1	1017
	（皇）宗通寶	1	1038
	嘉祐通寶	1	1056
	元祐通寶	1	1086
	□宋□□	1	
	判読不能	1	
4058	祥符元寶	1	1009
4059	天聖元寶	1	1023
	開元通寶	1	621
	□□通寶	1	
	判読不能	2	
4063	判読不能	1	
	太平通寶か	1	976

表２　出土銅銭一覧２

出土遺構	銭種	枚数	初鋳年
4068	天□□寶	1	
4069	□和□□	1	
4071	判読不能	1	
4072	元祐通寶	1	1086
4074	判読不能	1	
4077	皇宗通寶	1	1038
	判読不能	3	
4078	皇宗通寶	3	1038
	聖宋元寶	3	1101
	永楽通寶	2	1408
	洪武通寶	1	1368
	天聖元寶	3	1023
	天禧通寶	2	1017
	元豊通寶	1	1078
	元祐通寶	2	1086
	元豊通寶	2	1078
	至大通寶	1	1310
	大観通寶	8	1107
	明道元寶	2	1032
	景徳元寶	1	1004
	咸平元寶	1	998
	紹熙元寶	1	1190
	大中通寶	1	1361
	至和元寶	1	1054
	元符通寶	1	1098
	開元通寶か	1	621
	□元通□	1	
	□□元□	1	
	判読不能	9	
4086	咸平元（寶）	1	998
4093	至道元寶	1	995
4094	元豊通寶	1	1078
	紹聖元寶	1	1094
	開元通寶	1	621
	熙寧元寶	1	1068
	元符通寶	1	1098
4100	判読不能	1	
4103	元祐通寶	1	1086
4112	皇宗通寶	1	1038
4116	（景）徳元寶	1	1004
4122	判読不能	1	
4128	紹聖元寶	1	1094
	判読不能	1	
4136	判読不能	1	
4137	元祐通寶	1	1086
	開元通寶	1	621
4139	判読不能	1	
4165	?□□寶	1	
4180	嘉定通寶	1	1208
	元豊通寶	2	1078
	淳熙元寶	1	1174
	皇（宋）通（寶）	1	1038
	淳化元寶	1	990
	至大通寶	2	1310
	咸平元寶	1	998
	開元通寶	1	621
	至道元（寶）	1	995
	□□元寶	1	

出土遺構	銭種	枚数	初鋳年
4192	熙寧元寶	1	1068
4202	開元通寶	1	621
	□□元寶	1	
	元□□□	1	
	判読不能	5	
	政（和通）寶	1	1111
4207	判読不能	1	
4218	大□通寶	1	
4220	判読不能	1	
5003	天聖元寶	1	1023
5004	大観通寶	2	1107
	判読不能	2	
5006	（皇）宗通（寶）	1	1038
	慶元通寶	1	1195
	紹定通寶	1	1228
	天禧通寶	1	1017
	判読不能	1	
5007	紹□□寶	1	
	判読不能	1	
5011	判読不能	1	
5013	（　　）通寶	1	
5015	判読不能	1	
5017	（）□元（寶）	1	
5021	太（平）通（寶）	1	976
5030	□元□寶	1	
5031	皇宗通寶	1	1038
5036	元祐通寶	1	1086
5060	元祐通寶	1	1086
5064	（　）元寶	1	
5081	紹（　　）	1	
5085	開元通寶	1	621
	大観通寶	1	1107
5096	熙寧元寶	2	1068
5098	元豊通寶	1	1078
5187	判読不能	1	
5219	（　）通（）	1	
5248	判読不能	1	
	開元通寶	1	621
5284	熙寧元寶	1	1068
	判読不能	1	
5304	元□通寶	1	
	判読不能	3	
5306	祥符通寶	1	1009
	判読不能	4	
5325	皇宗通寶	1	1038
5402	判読不能	1	
	皇宗通寶	2	1038
6002	皇宗通寶	1	1038
6028	嘉祐元寶	1	1056
1区検出	皇宗通寶か	1	1038
	天禧通寶	1	1017
	（　）通（）	1	
	至道元寶	1	995
	元祐通寶	1	1086
	紹聖元寶	1	1094
	開元通寶	1	621
	嘉祐通寶		1056
	判読不能	6	

表３　出土銅銭一覧３

出土遺構	銭種	枚数	初鋳年
１区１面清掃	元祐通寶	1	1086
１区１面１段下げ	祥符□□	1	
１区１面～焼土面上面まで掘下げ	判読不能	1	
	無文銭	1	
１区 1001 東側焼土層 下面～２面まで掘下げ	至道元寶	1	995
	判読不能	3	
	永楽通寶	2	1408
	景徳元寶	1	1004
	洪武通寶	3	1368
	祥符元寶	2	1009
	太平通寶	1	976
	元祐通寶	1	1086
	皇宗通寶	1	1038
	聖宋元寶	1	1101
	宋通元寶	1	960
	嘉祐通寶	1	1056
１区１～２面掘下げ	元豊通寶	1	1078
	洪武通寶	1	1368
	元祐通寶	1	1086
	嘉祐元寶	1	1056
	熙寧元寶	1	1068
	(永) 楽通寶	1	1408
	判読不能	1	
１区 3.0 m～２面までの掘下げ	「平」か	1	
	永楽通寶	2	1408
	紹聖元寶	1	1094
	開元通寶	3	621
	祥符通寶	2	1009
	皇宗通寶	1	1038
	天聖元寶	1	1023
	太平通寶	1	976
	政和通寶	2	1111
	(　　) 元寶	1	
	判読不能	5	
１区 1001 から東 3.0 m～２面までの掘下げ	判読不能	1	
1001 西側１面から 3.0 m まで掘下げ	開（元通）寶	1	621
１区西側１面～ 3.0 mまでの掘下げ中	元豊通寶	1	1078
	天（　　）	1	
	判読不能	8	
１区西側 3.0 m～２面までの掘下げ	洪武通寶	1	1368
	至和元寶	2	1054
	開元通寶か	1	621
	判読不能	1	
	開元通寶	1	621
	至道元寶	1	995
	祥（　　）	1	
１区３面検出	熙寧元寶	2	1068
	永楽通寶	1	1408
	元豊通寶	1	1078
	淳熙元寶	1	1174
	(　) 平 (　　)	1	
	判読不能	2	

出土遺構	銭種	枚数	初鋳年
１区３面表	洪武通寶	1	1368
	判読不能	1	
	紹聖元寶	1	1094
１区３～４面掘下げ	判読不能	7	
	政和通寶	2	1111
	皇宗通寶	3	1038
	景祐元寶	1	1034
	元祐通寶	3	1086
	紹聖元寶	1	1094
	聖宋元寶	2	1101
	開元通寶	3	621
	至和元寶	2	1054
	熙寧元寶	2	1068
	永楽通寶	1	1408
	洪武通寶	2	1368
	元祐通寶	2	1086
	太平通寶	2	976
	元豊通寶	1	1078
	(祥) 符通寶	2	1009
	(　) 元 (　　)	1	
	(　) 元通 (　)	1	
	(　　　) 寶	1	
	(　　) 元寶	1	
	小片多数		
１区４面表	祥符通寶	1	1009
１区４面清掃	政和通寶	1	1111
	皇宗通寶	2	1038
	判読不能	2	
	元祐通寶	1	1086
１区４面検	開元通（寶）	1	621
１区４～５面掘下げ	元祐通寶	3	1086
	開元通寶	7	621
	聖宋元寶	3	1101
	判読不能	12	
	政和通寶	1	1111
	元豊通寶	3	1078
	天聖元寶	3	1023
	熙寧元寶	2	1068
	紹聖元寶	3	1094
	嘉祐元寶か	1	1056
	元豊通寶か	1	1078
	天禧通寶	2	1017
	太平通寶	1	976
	皇宗通寶	3	1038
	嘉祐元寶	2	1056
	大定通寶	2	1178
	景徳元寶	1	1004
	大観通寶	1	1107
	祥符通寶	1	1009
	□□元寶	1	
	?元重寶	1	758
	淳化（元寶）	1	990
	小片８つ		
１区５面清掃	景徳元寶	1	1004
	嘉祐通寶	1	1056
	判読不能	1	

表４　出土銅銭一覧４

出土遺構	銭種	枚数	初鋳年
１区廃土	熙寧元寶	1	1068
	祥符元寶	1	1009
	洪武通寶	1	1368
Ⅱ区１～２面掘下げ	太平通寶	1	976
	判読不能	1	
	洪武通寶	1	1368
	天（　　）寶	1	
	小片６つ		
Ⅱ区２面検	祥符通寶	1	1009
	判読不能	1	
Ⅱ区２～３面掘下げ	聖宋元寶	1	1101
	天聖元寶	1	1023
	元祐通寶	3	1086
	熙寧元寶	1	1068
	祥符元寶	1	1009
	開（　　）寶	1	
	宋通元寶か	1	960
	判読不能	10	
Ⅱ区３面路面上	（）豊通（　）	1	
	判読不能	3	
Ⅱ区３～４面掘下げ	宣和通寶	1	1119
	政和通寶	1	1111
	嘉祐元寶	1	1056
	至道元寶	1	995
	熙寧元寶	1	1068
	元祐通寶	1	1086
	聖宋元寶か	1	1101
	淳化元寶	1	990
	判読不能	11	
	紹聖元寶	1	1094
	天禧通寶か	1	1017
	開元通寶	2	621
	（　　）元寶	2	
	開（　）通（　）	1	
	小片６つ		
	元豊通寶	1	1078
	３枚銹着・判読不能	3	
Ⅱ区３～４面掘下げ道路層	判読不能	1	
	皇（宗）通（寶）	1	1038
Ⅱ区４～５面掘下げ	（景）徳元（寶）	1	1004
	至和元寶	1	1054
	元豊通寶	6	1078
	?元重寶	1	758
	聖宋元寶	1	1101
	元祐通寶	2	1086
	開元通寶	3	621
	天聖元寶	2	1023
	皇宗通寶	1	1038
	祥符元寶	1	1009
	嘉祐通寶	1	1056
	熙寧元寶	2	1068
	政和通寶	1	1111
	大観通寶	1	1107
	政和通寶	1	1111
	小片７つ		

出土遺構	銭種	枚数	初鋳年
Ⅱ区５面検出	宋通（元寶）	1	960
	（　　）寶	1	
	皇宗通寶	1	1038
	開元通寶	1	621
	治平元寶	1	1064
	祥符□寶	1	
	熙寧元寶	1	1068
	景祐元寶	1	1034
	（　）元寶	1	
	（元）豊通（寶）	1	1078
	判読不能	6	
Ⅱ区廃土中	元符通寶	1	1098
	開元通寶	1	621
	大観通寶	1	1107
	元祐通寶	1	1086
	元（　　）寶	1	

にみられる特徴である。他にはSK5099でイボウミニナを主とする小型巻貝がびっしりと詰まった状態で650個以上出土した（図版15-7）。被熱などの痕跡はない。165次調査では道路が築かれる前の土坑からツメタガイなどの貝殻を廃棄した土坑を数基確認したため、集落形成前の沖ノ濱は漁師などが加工場として利用していたのではと考え、今回の調査でもそれらの廃棄土坑の広がりを予想していたが、204次調査区ではSK5099以外には確認できなかった。貝の廃棄土坑にしても加工場ではなく消費地としての有り様を示している可能性があるが、周辺の調査例が少ないため今後の調査の広がりに期待したい。

4. 小結

今回の204次調査では、東西方向の道路側溝とその北側で柱穴群、井戸、土坑などが出土した。道路は2006年に発掘調査を行った南東側隣接地の165次調査で既に確認されている（福岡市埋蔵文化財調査報告書第993集 『博多123』）。165次調査では砂丘面直上から道路面が確認されており、道路はその後盛り土を繰り返しながら太閤町割まで続いたと考えられ、道路の整地層は高さ2.2ｍにも及ぶ。道路が築かれた時期は、砂丘面直上の道路路面で同安窯系青磁碗の細片が敷いた状態で出土しており、これは同安窯系のみで他の遺物を含まないため、陸揚げ直後に使用不能な個体を砕いて使用したものと思われる。また道路面下で出土した道路築造以前の廃棄土坑からも同安窯系青磁碗が出土している。したがって同安窯系青磁碗が博多に入ってきていた12世紀後半頃に道路が築かれたものと思われる。道路はその後少しずつ南北方向へ移動を繰り返すが、2カ所の調査結果を合わせると、だいたい5ｍ前後の幅があったと考えられる（第30図）。道路の両端で確認した溝状の掘り込みは165次の報告では側溝としたが、204次の1･2面で出土した溝内から根石が出土したため、側溝ではなく塀を築くための柱を埋めた布掘りであることが判明した。3･4面も塀の下部構造である可能性はあるものの、溝内に根石がみられなくなる。3面では溝の北側に沿って柱穴列がみられるため、側溝の北側に沿って柵もしくは塀が築かれていたと考えられる。第4面では路面は確認できたが溝はなく、第3面の柱穴列とほぼ同じ場所に柱穴列がみられ、側溝は無かったものと思われる。側溝は同じ場所に繰り返し掘られるため調査においても難しい点が多く、そのため時期を確定させるのは困難であるが、推定では道路北側の縁に側溝があったとしても13世紀頃の一時期のみで、他の時期には柵や塀などが道路とその外側を区切っていたことが分かる。

道路に接する土地については、165次調査では西側最下層で側溝に沿って柱穴が並び、それに直行する径20㎝ほどの柱穴列と幅10～30㎝ほどの小溝を確認した（『博多123』第5図や図版3－1～3）。同様の小溝は204次でも第5面で検出されている（本書第6･30図下段）。道路を挟んだ南北で同様の構造を持つ建物が建っていたものと考えられる。また204次の第5面では1～4面には少ない井戸や大型の土坑、火葬土坑など多様な遺構がみられる。柱穴は多くみられるが根石を伴う柱穴は他の面に比べて少ない。1～4面では小溝はみられなくなり、根石を持った柱穴が全体に分布する。柱穴、根石とも規模は小さく、小規模な建物が建ち並んだ状況が想像できる。165次でみられた土師坏・皿が大量に廃棄された溝状の掘り込みは北側ではみられない。また、骨角器の未製品や金泥が付着した白磁碗（パレットとして使用か）など工房に伴うと考えられる遺物も204次ではみられないなど道路の南北で出土した遺物の内容に違いが見られる。

遺物が多量に出土したため動物遺存体やその他の遺物についても整理中のものがあり、報告書に反映することができなかった。いつか整理報告する機会がつくれれば幸いである。

1．Ⅰ区１面全景（南西から）

2．Ⅰ区２面検出状況

図版２

１．Ⅰ区３面全景（南西から）

２．Ⅰ区４面全景（南西から）

1．Ⅰ区５面全景（南西から）

2．Ⅱ区１面全景（北東から）

図版４

１．Ⅱ区２面全景（北東から）

２．Ⅱ区３面全景（北東から）

１．Ⅱ区４面全景（北東から）

２．Ⅱ区５面全景（北東から）

図版 6

1．Ⅱ区 6 面全景（北東から）

2．2084（南から）

3．5187（北から）

4．5188（北から）

5．6001（西から）

1．Ⅱ区 1 面側溝検出状況（東から）

2．Ⅱ区 3 面側溝根石出土状況（東から）

3．1181 根石出土状況

4．1050（南西から）

5．1142・1181・1172 土層（東から）

6．4002 と 4093（南西から）

7．4225 刀子出土状況（南から）

8．Ⅱ区路面 3 面出土マグロ類尾鰭

図版８

１．1021(南から)

２．1148(南から)

３．1151(南から)

４．1169(東から)

５．1170(東から)

６．3001 土層 (西から)

７．4094(北から)

８．5007(西から)

1．5021(南から)

2．5021 土層 (東から)

3．5024(西から)

4．5064(南から)

5．5085(西から)

6．5129(南から)

7．5135・5136(北から)

8．5218(北から)

図版 10

1．5257(東から)

2．5257 土層 (南から)

3．5258(西から)

4．5304(南から) (2)

5．5306 土層 (南から)

6．5362(南から)

7．5362 土層 (南から)

8．Ⅰ区 2 面焼土面 (南西から)

1．1017(北西から)

2．1024(南東から)

3．1090(南西から)

4．4040(東から)

5．4067(北西から)

6．4089(東から)

7．6026(南から)

8．6026 土層 (西から)

図版 12

1．1006(南東から)

2．1069(南から)

3．2003(南西から)

4．2003(北東から)

5．4202(東から)

6．5217(南西から)

7．5219(西から)

8．5295(北東から)

1．1010(西から)

2．2006(東から)

3．3.2006 土層 (南から)

4．2006 礫出土状況 (南から)

5．2079 整地層

6．3065 土層 (東から)

7．4058(北西から)

8．5181(南から)

図版 14

1．1036(西から)

2．2030(北から)

3．2118(北から)

4．4062 漆出土状況

5．4139(北から)

6．4157(北東から)

7．5004(東から)

8．5348(南から)

1．1009(北から)

2．Ⅱ区 2 面路面 (東から)

3．1067 路面瓦

4．1183 道路敷石 (北東から)

5．Ⅰ区 1　　2 面石列

6．Ⅱ区 3 面路面出土青銅製品

7．5099(東から)

8．2119(北東から)

図版 16

1．4180 銅銭出土状況

2．1 区焼土層（第 2 面）

3．Ⅰ区南壁土層

4．Ⅰ区北東壁土層

5．Ⅱ区西端道路土層（北東から）

6．Ⅱ区西端道路土層拡大（北東から）

7．Ⅱ区道路土層（北東から）

8．Ⅱ区作業風景

報 告 書 抄 録

ふりがな	はかた 157
書名	博多 157
副書名	博多遺跡群第 204 次調査報告
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 1315 集
編著者名	屋山洋
編集機関	福岡市教育委員会
所在地	福岡市中央区天神 1 丁目 8－1
発行年月日	2017 年 3 月 24 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	北緯	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
ひえいせきぐん 比恵遺跡群 第 130 次	ふくおかしはかたく 福岡市博多区 古門戸町 53 番 1	40137	0121	33° 35′ 49.7″	130° 24′ 15.3″	20150307 ～ 20150717	229	集合住宅 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
博多遺跡群 第 204 次	集落	平安時代末～近世	井戸・溝・ 土坑・柱穴	陶磁器・土師器・ 瓦・鉄滓	平安時代末から 中世末にかけての 道路が出土した

要約	博多遺跡群は北が博多湾に面し、東西を御笠川Wと那珂川に挟まれ、南側を房州堀で区切られる南北1.5km、東西0.8kmの範囲で弥生時代以降連綿と人が生活した痕跡が残っている。今回調査した204次調査区は博多遺跡でも北西端に近く、12世紀頃ごろから集落が形成される地域である。調査では東西方向の道路とその北側に接する塀の地下構造である溝や井戸、土坑、柱穴群が出土した。出土遺物は中国製陶磁器の他、須恵器、土師器、瓦、鉄滓、滑石製品、鉄器、銅銭、動物遺存体など多量の遺物が出土した。

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1315集

博多157

－博多遺跡群第204次調査報告－

2017年(平成29年)3月24日

発　行　福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目8－1

印　刷　有限会社プリコム
福岡市博多区冷泉町1-20
092-282-5321